校異源氏物語・やとり木

その比ふちつほときこゆるはこ左大臣殿の女御になむおはしけるまた春宮と聞えさせし時人よりさきにまいり給にしかはむつましくあはれなるかたの御思ひはことにものし給めれとそのしるしとみゆるふしもなくてとしへ給ふに中宮にはみやたちさへあまたこゝらをとなひ給ふめるにさやうの事もすくなくてたゝ女宮ひとゝころをそもちたてまつり給へりけるわかいとくちおしく人におされたてまつりぬるすくせなけかしくおほゆるかはりにこの宮をたにいかてゆくすゑの心もなくさむはかりにてみたてまつらむとかしつき聞え給ふ事をろかならす御かたちもいとおかしくおはすれはみかともらうたきものにおもひきこえさせ給へり女一の宮をよにたくひなきものにかしつき聞えさせ給におほかたの世のおほえこそおよふへうもあらねうち　くの御ありさまはおさ　くをとらすちゝおとゝの御いきほひいかめしかりしなこりいたくおとろへねはことに心もとなき事なとなくてさふらふ人　くのなりすかたよりはしめたゆみなく時　くにつけつゝとゝのへこのみいまめかしくゆへ　くしきさまにもてなし給へり十四になり給ふとし御裳きせ奉りたまはんとて春よりうちはしめてこと事なくおほしいそきてなに事もなへてならぬさまにとおほしまうくいにしへよりつたはりたりけるたからものともこのおりにこそはとさかしいてつゝいみしくいとなみ給に女御なつころものゝけにわつらひ給ていとはかなくうせ給ぬいふかひなくくちおしき事をうちにもおほしなけく心はえなさけ　くしくなつかしきところおはしつる御かたなれは殿上人とももこよなくさう　くしかるへきわさかなとおしみきこゆおほかたさるましききはの女官なとまてしのひきこえぬはなし宮はましてわかき御心ちに心ほそくかなしくおほしいりたるをきこしめして心くるしくあはれにおほしめさるれは御四十九日すくるまゝにしのひてまいらせたてまつらせ給へり日ゝにわたらせ給つゝみたてまつらせ給くろき御そにやつれておはするさまいとゝらうたけにあてなるけしきまさり給へり心さまもいとよくおとなひ給て母女御よりもいますこしつしやかにおもりかなる所はまさりたまへるをうしろやすくはみたてまつらせ給へとまことには御はゝかたとてもうしろみとたのませ給へきをちなとやうのはか　くしき人もなしわつかに大くら

卿すりのかみなといふは女御にもことはらなりけることに世のおほえをもりかにもあらすやんことなからぬ人　くをたのもし人にておはせんに女は心くるしき事おほかりぬへきこそいとおしけれなと御心ひとつなるやうにおほしあつかふもやすからさりけり御まへのきくうつろひはてゝさかりなるころ空のけしきのあはれにうちしくるゝにもまつこの御かたにわたらせ給てむかしの事なと聞えさせ給ふに御いらへなともおほとかなるものからいはけなからすうちきこえさせ給ふをうつくしくおもひ聞えさせ給かやうなる御さまをみしりぬへからん人のもてはやしきこえんもなとかはあらん朱雀院のひめ宮を六条院にゆつりきこえ給しおりのさためともなとおほしめしいつるにしはしはいてやあかすもあるかなさらてもおはしなましときこゆる事ともありしかと源中納言の人よりことなるありさまにてかくよろつをうしろみたてまつるにこそそのかみの御おほえおとろへすやんことなきさまにてはなからへ給めれさらすは御心よりほかなる事ともゝいてきてをのつから人にかるめられ給ことにもやあらましなとおほしつゝけてともかくも御覧する世にやおもひさためましとおほしよるにはやかてそのついてのまゝにこの中納言よりほかによろしかるへき人又なかりけり宮たちの御かたはらにさしならへたらんに何事もめさましくはあらしをもとより思人もたりて聞にくき事うちますましくはたあめるをつゐにはさやうの事なくてしもえあらしさらぬさきにさもやほのめかしてましなとおり　くおほしめしけり御こなとうたせ給ふくれゆくまゝにしくれおかしき程に花の色も夕はえしたるを御覧して人めしてたゝいま殿上にはたれ　くかととはせ給に中務のみこかんつけのみこ中納言みなもとのあそんさふらふとそうす中納言のあそんこなたへとおほせ事ありてまいり給へりけにかくとりわきてめしいつるもかひありてとをくよりかほれるにほひよりはしめ人にことなるさまし給へりけふのしくれつねよりことにのとかなるをあそひなとすさましきかたにていとつれ　くなるをいたつらに日を送るたはふれにてこれなんよかるへきとて碁はんめしいてゝ御碁のかたきにめしよすいつもかやうにけちかくならしまつはし給ふにならひにたれはさにこそはとおもふによきのりものはありぬへけれとかる　くしくはえわたすましきを何をかはなとのたまはする御けしきいかゝみゆらんいとゝ心つかひしてさふらひ給さてうたせ給ふに三はんに数ひとつまけさせ給ひぬねたきわさかなとてまつけふはこの花ひとえたゆるすとのたまはすれは御いらへ聞えさせておりておもしろきえたをおりてまいり給へり

よのつねのかき根ににほふ花ならはこゝろのまゝにおりてみましをとそう

し給へるようゐあさからすみゆ

霜にあへすかれにしそのゝ菊なれとのこりの色はあせすもある哉との給はすかやうにおり　くほのめかさせ給御けしきを人つてならすうけ給りなかられいの心のくせなれはいそかしくしもおほえすいてやほいにもあらすさま　くにいとおしき人　くの御事ともをもよくきゝすくしつゝとしへぬるをいまさらにひしりのものゝよにかへりいてん心ちすへき事と思ふもかつはあやしやことさらに心をつくす人たにこそあなれとは思なからきさきはらにおはせはしもとおほゆる心のうちそあまりおほけなかりけるかゝる事を右大殿ほの聞給て六の君はさりともこの君にこそはしふ　くなりともまめやかにうらみよらはついにはえいなひはてしとおほしつるを思ひのほかの事いてきぬへかなりとねたくおほされけれは兵部卿の宮はたわさとにはあらねとおり　くにつけつゝおかしきさまにきこえ給事なとたえさりけれはさはれなをさりのすきにはありともさるへきにて御心とまるやうもなとかなからん水もるましく思さためんとてもなを

くしききはにくたらんはたいと人わろくあかぬ心ちすへしなとおほしなりにたり女こうしろめたけなる世のすゑにてみかとたにむこもとめ給ふよにましてたゝ人のさかりすきんもあいなしなとそしらはしけにの給て中宮をもまめやかにうらみ申給事たひかさなれはきこしめしわつらひていとおしくかくおほな

く思ひ心さしてとしへ給ひぬるをあやにくにのかれきこえ給はんもなさけなきやうならんみこたちは御うしろみからこそともかくもあれうへの御よもすゑになり行とのみおほしの給めるをたゝ人こそひと事にさたまりぬれは又心をわけんこともかたけなめれそれたにかのおとゝのまめたちなからこなたかなたうらやみなくもてなしてものし給はすやはあるましてこれは思ひをきてきこゆる事もかなはゝあまたもさふらはむになとかあらんなとれいならすことつゝけてあるへかしくきこえさせ給ふを我御心にももとよりもてはなれてはたおほさぬ事なれはあなかちにはなとてかはあるましきさまにもきこえさせ給んたゝいと事うるはしけなるあたりにとりこめられて心やすくならひ給へるありさまの所せからん事をなまくるしくおほすにものうきなれとけにこのおとゝにあまりゑんせられはてんもあいなからんなとやう　くおほしよはりにたるへしあたなる御心なれはかのあせちの大納言のこうはいの御方をも猶おほしたえす花もみちにつけてものゝ給ひわたりつゝいつれをもゆかしくはおほしけりされとそのとしはかはりぬ女二の宮も御ふくはてぬれはいとゝ何事にかはゝかり給んさもきこえいてはとおほしめしたる御けしきなとつけきこゆる人　くもあるをあまり

しらすかほならんもひか　くしうなめけなりとおほしおこしてほのめかしまいらせ給おり　くもあるにはしたなきやうはなとてかはあらんそのほとにおほしさためたなりとつてにもきく身つから御けしきをもみれと心のうちにはなをあかす過給にし人のかなしさのみわするへきよなくおほゆれはうたてかく契りふかくものし給ける人のなとてかはさすかにうとくては過にけんと心えかたく思ひいてらるくちおしきしなゝりともかの御ありさまにすこしもおほえたらむ人はこゝろもとまりなんかしむかしありけんかうのけふりにつけてたにいま一たひみたてまつる物にもかなとのみおほえてやむことなきかたさまにいつしかなといそくこゝろもなし右大殿にはいそきたちて八月はかりにときこえ給けり二条院のたいの御方にはきゝ給にされはよいかてかは数ならぬありさまなめれはかならす人わらへにうき事いてこんものそとは思ふ　くすこしつる世そかしあたなる御心と聞わたりしをたのもしけなく思なからめにちかくてはことにつらけなることみえすあはれにふかき契りをのみし給へるをにはかにかはり給ん程いかゝはやすき心ちはすへからむたゝ人のなからひなとのやうにいとしもなこりなくなとはあらすともいかにやすけなき事おほからんなをいとうき身なめれはついには山すみに返へきなめりとおほすにもやかて跡たえなましよりは山かつのまちおもはんも人わらへなりかし返ゝも宮のゝ給をきしことにたかひてくさのもとをかれにける心かるさをはつかしくもつらくも思しり給こひめ君のいとしとけなけに物はかなきさまにのみ何事もおほしの給しかと心のそこのつしやかなるところはこよなくもおはしけるかな中納言の君のいまにわするへきよなくなけきわたり給めれともしよにおはせましかは又かやうにおほすことはありもやせましそれをいとふかくいかてさはあらしと思いり給てとさまかうさまにもてはなれん事をおほしてかたちをもかへてんとし給しそかしかならすさるさまにてそおはせましいま思にいかにをもりかなる御心をきてならましなき御かけともゝ我をはいかにこよなきあはつけさとみ給らんとはつかしくかなしくおほせとなにかはかひなきものからかゝるけしきをもみえたてまつらんとしのひ返してきゝもいれぬさまにてすくし給ふ宮はつねよりもあはれになつかしくおきふしかたらひちきりつゝこのよならすなかき事をのみそたのみきこえ給さるは此さ月はかりよりれいならぬさまになやましくし給こともありけりこちたくくるしかりなとはし給はねとつねよりも物まいる事いとゝなくふしてのみおはするをまたさやうなる人のありさまよくもみしり給はねはたゝあつきころなれはかくおはするなめりとそおほしたるさすかにあやしとおほしとかむる事も

ありてもしいかなるそさる人こそかやうにはなやむなれなとの給ふおりもあれ
といとはつかしくし給てさりけなくのみもてなし給へるをさし過聞え出る人も
なけれはたしかにもえしり給はす八月になりぬれはその日なとほかよりそつた
へきゝ給宮はへたてんとにはあらねといひ出んほと心くるしくいとおしくおほ
されてさもの給はぬを女君はそれさへ心うくおほえ給ふしのひたる事にもあら
す世中なへてしりたることをその程なとたにの給はぬことゝいかゝうらめしか
らさらんかくわたり給にしのちはことなる事なけれはうちにまいり給てもよる
とまる事はことにし給はすこゝかしこの御よかれなともなかりつるをにはかに
いかに思給はんと心くるしきまきらはしにこのころは時〻御とのゐとてまいり
なとし給つゝかねてよりならはしきこえ給ふをもたゝつらきかたにのみそ思を
かれ給ふへき中納言殿もいと　くをしきわさかなときゝ給ふはな心におはする
宮なれはあはれとはおほすともいまめかしきかたにかならす御心うつろひなん
かし女かたもいとしたゝかなるわたりにてゆるひなくきこえまつはし給はゝ月
ころもさもならひたまはてまつ夜おほくすこし給んこそあはれなるへけれなと
思ひよるにつけてもあひなしや我心よなにしにゆつり聞えけんむかしの人に心
をしめてしのちおほかたの世をも思ひはなれてすみはてたりしかたの心もにこ
りそめにしかはたゝかの御事をのみとさまかうさまには思なからさすかに人の
心ゆるされてあらむことははしめより思ひしほいなかるへしとはゝかりつゝた
ゝいかにしてすこしもあはれとおもはれてうちとけたまへらんけしきをもみん
とゆくさきのあらましことのみ思つゝけしに人はおなし心にもあらすもてなし
てさすかにひとかたにもえさしはなつましく思ひたまへるなくさめにおなし身
そといひなしてほいならぬかたにおもむけ給ひしかねたくうらめしかりしかは
まつその心をきてをたかへんとていそきせしわさそかしなとあなかちにめゝし
くものくるおしくゐてありきたはかりきこえしほと思ひ出るもいとけしからさ
りける心かなと返す　くそくやしき宮もさりともその程のありさま思ひいて給
はゝ我きかん所をもすこしはゝはかり給はしやと思にいてやいまはそのおりの
事なとかけてもの給ひいてさめりかしなをあたなるかたにすゝみうつりやすな
る人は女のためのみにもあらすたのもしけなくかる　くしき事もありぬへきな
めりかしなとにくゝ思ひきこえ給わかまことにあまりひとかたにしみたる心な
らひに人はいとこよなくもとかしくみゆるなるへしかの人をむなしくみなしき
こえ給ふてしのち思にはみかとの御むすめをたまはんとおもほしをきつるもう
れしくもあらすこの君をみましかはとおほゆる心の月日にそへてまさるもたゝ

かの御ゆかりと思におもひはなれかたきそかしはらからといふなかにもかきりなくおもひかはし給へりし物をいまはとなり給にしはてにもとまらん人をおなし事とおもへとてよろつはおもはすなる事もなしたゝかの思をきてしさまをたかへ給へるのみなんくちおしううらめしきふしにてこの世には残るへきとの給しものをあまかけりてもかやうなるにつけてはいとゝつらしとやみ給覧なとつく　くと人やりならぬひとりねし給ふよな　くははかなき風の音にもめのみさめつゝきしかたゆくさき人のうへさへあちきなき世を思ひめくらし給ふなけのすさひにものをもいひふれけちかくつかひならし給人　くのなかにはをのつからにくからすおほさるゝもありぬへけれとまことには心とまるもなきこそさはやかなれさるはかの君たちの程にをとるましきゝはの人　くも時よにしたかひつゝおとろへてこゝろほそけなるすまゐするなとをたつねとりつゝあらせなといとおほかれといまはと世をのかれそむきはなれん時この人こそとゝりたてゝこゝろとまるほたしになるはかりなる事はなくてすくしてんと思こゝろふかゝりしをいとさもわろくわか心なからねちけてもあるかななとつねよりもやかてまとろますあかし給へるあしたにきりのまかきより花の色　くおもしろくみえわたれるなかにあさかほのはかなけにてましりたるを猶ことにめとまる心地し給あくるまさきてとかつねなきよにもなすらふるか心くるしきなめりかしかうしもあけなからいとかりそめにうちふしつゝのみあかし給へはこの花のひらくる程をもたゝひとりのみみ給ひける人めしてきたの院にまいらむにこと　くしからぬくるまさしいてさせよとの給へは宮はきのふよりうちになんおはしますなるよへ御車いてかへり侍りにきと申すさはれかのたいの御方のなやみ給なるとふらひきこえむけふはうちにまいるへき日なれは日たけぬさきにとの給て御さうそくし給いて給ふまゝにおりて花のなかにましりたまへるさまことさらにえんたち色めきてもゝてなし給はねとあやしくたゝうちみるになまめかしくはつかしけにていみしくけしきたつ色このみともになすらふへくもあらすをのつからおかしくそみえ給けるあさかほひきよせ給へる露いたくこほる

今朝のまの色にやめてんをく露のきえぬにかゝる花とみる　くはかなとひとりこちておりてもたまへりをみなへしをはみすきてそいて給ぬる明はなるゝまゝにきりたちみたる空おかしきに女とちはしとけなくあさいし給へらむかしかうしつまとうちたゝきこはつくらんこそうゐ　くしかるへけれあさまたきまたききにけりと思ひなから人めして中もんのあきたるよりみせ給へはみかうしともまいりて侍へし女はうの御けはひもし侍りつと申せはおりてきりのまきれ

にさまよくあゆみいり給へるを宮のしのひたる所より返給へるにやとみるに露
にうちしめり給へるかほりれいのいとさまことにゝほひくれはなをめさましく
はおははすかし心をあまりおさめ給へるそにくきなとあいなくわかき人　くはき
こえあへりおとろきかほにはあらすよきほとにうちそよめきて御しとねさしい
てなとするさまもいとめやすしこれにさふらへとゆるさせ給ふほとは人　くし
き心ちすれと猶かゝるみすのまへにさしはなたせ給へるうれはしさになんしは
　くもえさふらはぬとの給へはさらはいかゝ侍へからむなときこゆきたおもて
なとやうのかくれそかしかゝるふる人なとのさふらはんにことはりなるやすみ
所はそれも又たゝ御心なれはうれへきこえへきにもあらすとてなけしによりか
ゝりておはすれはれいの人　く猶あしこもとになとそゝのかしきこゆもとより
もけはひはやりかにをゝしくなとはものし給はぬ人からなるをいよ　くしめや
かにもてなしおさめ給へれはいまは身つからきこえ給事もやう　くうたてつゝ
ましかりしかたすこしつゝうすらきておもなれ給にたりなやましくおほさるら
むさまもいかなれはなとゝひきこえ給へとはか　くしくもいらへきこえ給はす
つねよりもしめり給へるけしきの心くるしきもあはれにおほえ給てこまやかに
世中のあるへきやうなとをはらからやうのものゝあらましやうにをしへなくさ
めきこえ給声なともわさと似給へりともおほえさりしかとあやしきまてたゝそ
れとのみおほゆるに人めみくるしかるましくはすたれもひきあけてさしむかひ
きこえまほしくうちなやみ給へらんかたちゆかしくおほえ給も猶世中に物おも
はぬ人はえあるましきわさにやあらむとそ思しられ給人　くしくきら　くしき
かたには侍らすとも心に思ふ事ありなけかしく身をもてなやむさまになとはな
くて過しつへきこのよと身つから思ひ給へし心からかなしき事もおこかましく
くやしきものおもひをもかた　くにやすからす思ひ侍こそいとあいなけれつか
さくらゐなといひてたいしにすめることはりのうれへにつけてなけき思ふ人よ
りもこれやいますこしつみのふかさはまさるらむなといひつゝおり給へる花を
あふきにうちをきてみいたまへるにやう　くあかみもて行もなか　く色のあは
ひおかしくみゆれはやをらさしいれて
　よそへてそみるへかりけるしら露のちきりかをきしあさかほの花ことさら
ひてしももてなさぬに露おとさてもたまへりけるよとおかしくみゆるにをきな
からかるゝけしきなれは
　きえぬまにかれぬる花のはかなさにをくるゝ露は猶そまされるなにゝかゝ
れるといとしのひてこともつゝかすつゝましけにいひけち給へる程なをいとよ

く似給へるものかなと思にもまつそかなしき秋の空はいますこしなかめのみまさり侍つれ　くのまきらはしにもとおもひてさいつ比うちにものして侍き庭もまかきもまことにいとゝあれはてゝ侍しにたへかたき事おほくなん故院のうせ給てのち二三年はかりのすゑに世をそむき給しさかのゐんにも六条院にもさしのそく人のこゝろおさめんかたなくなん侍りける木草の色につけても涙にくれてのみなんかへり侍けるかの御あたりの人はかみしも心あさき人なくこそ侍りけれかた　くつとひものせられける人　くもみな所　くあかれちりつゝをの

　く思ひはなるゝすまゐをし給めりしにはかなき程の女房なとはたまして心おさめんかたなくおほえけるまゝにものおほえぬ心にまかせつゝ山はやしにいりましりすゝろなるゐ中人になりなとあはれにまとひちるこそおほく侍けれさて中　くみなあらしはてわすれくさおふして後なんこの右のおとゝもわたりすみ宮たちなともかた　くものし給へはむかしに返たるやうにはへめるさるよにたくひなきかなしさとみ給しこともとし月ふれは思さますおりのいてくるにこそはとみ侍にけにかきりあるわさなりけりとなんみえ侍かくはきこえさせなからもかのいにしへのかなしさはまたいはけなくも侍ける程にていとさしもしまぬにやはへりけんなをこのちかき夢こそさますへきかたなく思給へらるゝはおなし事よのつねなきかなしひなれとつみふかきかたはまさりて侍るにやとそれさへなん心うく侍とてなき給へる程いとこゝろふかけ也むかしの人をいとしも思ひきこえさらん人たにこの人のおもひ給へるけしきをみんにはすゝろにたゝにもあるましきをましてわれも物をこゝろほそく思ひみたれ給につけてはいとゝつねよりもおも影に恋しくかなしく思ひきこえ給心なれはいますこしもよをされてものもえきこえ給はすためらひかね給へるけはひをかたみにいとあはれと思ひかはし給ふよのうきよりはなと人はいひしをもさやうに思ひくらふる心もことになくてとしころはすくし侍りしをいまなんなをいかてしつかなるさまにてもすくさまほしく思ふ給ふるをさすかに心にもかなはさめれは弁のあまこそうらやましくはへれこの廿日あまりの程は彼ちかきてらのかねの声もきゝわたさまほしくおほえ侍をしのひてわたさせ給てんやときこえさせはやとなんおもひ侍つるとの給へはあらさしとおほすともいかてかは心やすきをのこたにゆきゝのほとあらましき山道にはへれは思ひつゝなん月日も隔り侍この宮の御き日はかのあさりにさるへき事ともみないひをき侍にきかしこはなをたうときかたにおほしゆつりてよ時　くみ給ふるにつけては心まとひのたえせぬもあいなきにつみうしなふさまになしてはやとなん思給ふるをまたいかゝおほしをきつら

んともかくもさためさせ給んにしたかひてこそはとてなんあるへからむやうにの給はせよかしなに事もうとからすうけ給はらんのみこそほいのかなふにては侍らめなとまめたちたる事共をきこえ給経仏なとこのうへもくやうし給へきなめりかやうなるついてにことつけてやをらこもりゐなはやなとおもむけ給へるけしきなれはいとあるましき事也猶なにことも心のとかにおほしなせとをしへきこえ給日さしあかりて人　くまいりあつまりなとすれはあまりなかゐもことありかほならむによりていて給なんとていつこにてもみすのとにはならひ侍らねはゝしたなき心ちし侍りてなんいま又かやうにもさふらはんとてたち給ぬ宮のなとかなきおりにはきつらんと思給ひぬへき御心なるもわつらはしくてさふらひのへたうなる右京のかみめしてよへまかてさせ給ひぬとうけたまはりてまいりつるをまたしかりけれはくちおしきをうちにやまいるへきとの給へはけふはまかてさせ給ひなんと申せはさらはゆふつかたもとていて給ひぬなをこの御けはひありさまをきゝ給たひことになとてむかしの人の御心をきてをもてたかへて思ひくまなかりけんとくゆるこゝろのみまさりて心にかゝりたるもむつかしくなそや人やりならぬ心ならんと思返し給ふそのまゝにまたさうしにていとゝたゝをこなひをのみし給ひつゝあかしくらし給はゝ宮のなをいともわかくおほときてしとけなき御心にもかゝる御けしきをいとあやふくゆゝしとおほしていくよしもあらしをみたてまつらむ程はなをかひあるさまにてみえ給へ世中を思すて給んをもかゝるかたちにてはさまたけきこゆへきにもあらぬをこの世のいふかひなき心ちすへき心まとひにいとゝつみやえんとおほゆるとの給ふかかたしけなくいとおしくてよろつを思ひけちつゝおまへにてはものおもひなきさまをつくり給ふ右のおほい殿には六条院のひんかしのおとゝみかきしつらひてかきりなくよろつをとゝのへてまちきこえ給に十六日月やう　くさしあかるまて心もとなけれはいとしも御心にいらぬ事にていかならんとやすからすおもほしてあないし給へはこのゆふつかたうちよりいて給て二条院になむおはしますなると人申すおほす人もたまへれはと心やましけれとこよひすきんも人わらへなるへけれは御子の頭中将してきこえ給へり

おほ空の月たにやとるわかやとに待よひ過てみえぬきみかな宮は中　くいまなんともみえし心くるしとおほして内におはしけるを御ふみきこえ給へりけり御返やいかゝありけん猶いとあはれにおほされけれはしのひてわたり給へりける也けりらうたけなるありさまをみすてゝいつへき心地もせすいとおしけれはよろつに契りなくさめてもろともに月をなかめておはする程也けり女君はひ

ころもよろつに思事おほかれといかてけしきにいたさしとねんし返しつゝつれなくさまし給事なれはことにきゝもとゝめぬさまにおほとかにもてなしておはするけしきいと哀也中将のまいり給へるをきゝ給てさすかにかれもいとおしけれはいて給はんとていまいとゝくまいりこんひとり月なみたまひそ心そらなれはいとくるしきときこえをき給てなをかたはらいたけれはかくれのかたよりしん殿へわたり給御うしろてをみをくるにともかくもおもはねとたゝ枕のうきぬへき心ちすれは心うき物は人の心也けりと我なから思しらるおさなき程より心ほそくあはれなる身ともにて世の中を思ひとゝめたるさまにもおはせさりし人ひと所をたのみきこえさせてさる山里に年へしかといつとなくつれ　くにすこくありなからいとかく心にしみて世をうきものともおもはさりしにうちつゝきあさましき御事ともを思し程はよに又とまりてかた時ふへくもおほえすこひしくかなしき事のたくひあらしと思しをいのちなかくていままてもなからふれは人の思ひたりし程よりは人にもなるやうなるありさまをなかゝるへき事とはおもはねとみるかきりはにくけなき御心はえもてなしなるにやう　く思事うすらきてありつるをこのおりふしの身のうさはたいはんかたなくかきりとおほゆるわさなりけりひたすらよになく成給にし人　くよりはさりともこれは時　くもなとかはとも思ふへきをこよひかくみすてゝいて給つらさきしかたゆくさきみなかきみたり心ほそくいみしきか我心なから思ひやるかたなく心うくもあるかなをのつからなからへはなとなくさめんことを思ふにさらにをは捨山の月すみのほりて夜ふくるまゝによろつ思みたれ給ふ松風のふきくるをともあらましかりし山おろしに思ひくらふれはいとのとかになつかしくめやすき御すまゐなれとこよひはさもおほえすしゐの葉のをとにはをとりておもほゆ

　山さとのまつのかけにもかくはかり身にしむ秋の風はなかりきゝしかたわすれにけるにやあらむ老人ともなといまはいらせ給ね月みるはいみ侍るものをあさましくはかなき御くた物をたに御覧しいれねはいかにならせ給んあなみくるしやゆゝしう思ひいてらるゝ事も侍をいとこそわりなくとうちなけきていてこの御ことよさりともかうておろかにはよも成はてさせ給はしさいへともとの心さしふかく思ひそめつるなかは名残なからぬ物そなといひあへるもさま　くにきゝにくゝいまはいかにも　くかけていはさらなむたゝにこそみめとおほさるゝは人にはいはせし我ひとりうらみきこえんとにやあらむいてや中納言とのゝさはかりあはれなる御心ふかさをなとそのかみの人　くはいひあはせて人の御すくせのあやしかりける事よといひあへり宮はいと心くるしくおほしなから

今めかしき御こゝろはいかてめてたきさまにまちおもはれんとこゝろけさうしてえならすたきしめ給へる御けはひいはんかたなし待つけきこえ給へるところのありさまもいとおかしかりけり人の程さゝやかにあえかになとはあらてよき程になりあひたるこゝちし給へるをいかならむもの　くしくあさやきてこゝろはへもたをやかなるかたはなくものほこりかになとやあらむさらはこそうたてあるへけれなとはおほせとさやなる御けはひにはあらぬにや御こゝろさしをろかなるへくもおほされさりけり秋のよなれとふけにしかはにや程なくあけぬかへり給ひてもたいへはふともえわたり給はすしはしおほとのこもりておきてそ御ふみかき給ふ御けしきけしうはあらぬなめりと御まへなる人　くつきしろふたいの御かたこそ心くるしけれ天下にあまねき御こゝろなりともをのつからけおさるゝ事もありなんかしなとたゝにしもあらすみなゝれつかうまつりたる人　くなれはやすからすうちいふともゝありてすへてなをねたけなるわさにそありける御かへりもこなたにてこそはとおほせとよの程おほつかなさもつねのへたてよりはいかゝと心くるしけれはいそきわたり給ねくたれの御かたちいとめてたく見所ありていり給へるにふしたるもうたてあれはすこしおきあかりておはするにうちあかみ給へるかほのにほひなとけさしもことにおかしけさまさりてみえ給にあいなくなみたくまれてしはしうちまもりきこえ給をはつかしくおほしてうつふし給へるかみのかゝりかんさしなと猶いとありかたけ也宮もなまはしたなきにこまやかなることなとはふともえいひ出給はぬおもかくしにやなとかくのみなやましけなる御けしきならむあつき程の事とかの給ひしかはいつしかと涼しきほと待いてたるもなをはれ　くしからぬはみくるしきわさかなさま　くにせさすることもあやしくしるしなき心地こそすれさはありともす法は又のへてこそはよからめしるしあらむそうもかななにかしそうつをそよゐにさふらはすへかりけるなとやうなるまめことをの給へはかゝるかたにもことよきは心つきなくおほえ給へとむけにいらへきこえさらむもれいならねは昔も人に似ぬありさまにてかやうなるおりはありしかとをのつからいとよくをこたるものをとの給へはいとよくこそさはやかなれとうちわらひてなつかしくあい行つきたるかたはこれにならふ人はあらしかしとは思ひなからなを又とくゆかしきかたの心いられもたちそひ給へるは御こゝろさしをろかにもあらぬなめりかしされとみ給ほとはかはるけちめもなきにやのちの世まてちかひたのめ給事とものつきせぬをきくにつけてもけにこの世はみしかゝめるいのちまつまもつらき御心にみえぬへけれはのちの契りやたかはぬこともあらむと思にこそなをこ

りすまに又もたのまれぬへけれとていみしくねんすへかめれとえしのひあへぬ
にやけふはなき給ぬひころもいかてかう思ひけりとみえたてまつらしとよろつ
にまきらはしつるをさま　くに思ひあつむることしおほかれはさのみもえもて
かくされぬにやこほれそめてはえとみにもためらはぬをいとはつかしくわひし
と思ていたくそむき給へはしゐてひきむけ給つゝきこゆるまゝに哀なる御あり
さまとみつるをなを隔たる御心こそありけれなさらすはよのほとにおほしかは
りにたるかとて我御袖して涙をのこひ給へはよのまの心かはりこその給ふにつ
けてをしはかられ侍ぬれとてすこしほゝゑみぬけにあか君やをさなの御ものい
ひやなさりとまことには心にくまのなけれはいと心やすしいみしくことはりし
てきこゆともいとしるかるへきわさそむけに世のことはりをしり給はぬこそら
うたきものからわりなけれよしわか身になしても思ひめくらし給へ身を心とも
せぬありさまなりもし思ふやうなる世もあらはひとにまさりける心さしの程し
らせたてまつるへきひとふしなんあるたわやすくことといつへきことにもあらね
はいのちのみこそなとの給ふ程にかしこにたてまつれ給へる御つかひいたくゑ
ひすきにけれはすこしはゝかるへきことゝもわすれてけさやかにこのみなみお
もてにまいれりあまのかるめつらしき玉もにかつきうつもれたるをさなめりと
人　くみるいつの程にいそきかき給へらんとみるもやすからすはありけんかし
宮もあなかちにかくすへきにはあらねとさしくみは猶いとおしきをすこしのよ
うゐはあれかしとかたはらいたけれといまはかひなけれは女房して御ふみとり
いれさせ給おなしくはへたてなきさまにもてなしはてゝむとおもほしてひきあ
け給へるにまゝはゝの宮の御てなめりとみゆれはいますこし心やすくてうちを
き給へりせんしかきにてもうしろめたのわさやさかしらはかたはらいたさにそ
ゝのかしはへれといとなやましけにてなむ

　をみなへししほれそまさるあさ露のいかにをきける名残なるらんあてやか
におかしくかき給へりかことかましけなるもわつらはしやまことは心やすくて
しはしはあらむと思ふよをおもひのほかにもあるかなゝとはの給へとまたふた
つとなくてさるへき物におもひならひたるたゝ人のなかこそかやうなる事のう
らめしさなともみる人くるしくはあれ思へはこれはいとかたしつゐにかゝるへ
き御事なり宮たちときこゆるなかにもすちことによ人おもひ聞えたれはいくた
りも　くえたまはん事ももときあるましけれは人もこの御方いとおしなとも思
ひたらぬなるへしかはかりもの　くしくかしつきするゑ給てこゝろくるしきかた
おろかならすおほしたるをそさいはいおはしけるときこゆめる身つからの心に

もあまりにならはし給うてにはかにはしたなかるへきかなけかしきなめりかゝる道をいかなれはあさからす人の思らんとむかしものかたりなとをみるにも人のうへにてもあやしくきゝ思ひしはけにおろかなるましきわさなりけりとわか身になりてそなに事も思ひしられ給ける宮はつねよりもあはれにうちとけたるさまにもてなし給てむけにものまいらさなるこそいとあしけれとてよしある御くた物めしよせ又さるへき人めしてことさらにてうせさせなとしつゝそゝのかしきこえたまへといとはるかにのみおほしたれはみくるしきわさかなとなけき聞え給にくれぬれはゆふつかたしむ殿へわたり給ぬ風すゝしくおほかたの空おかしき比なるにいまめかしきにすゝみ給へる御こゝろなれはいとゝしくえんなるにものおもはしき人の御心のうちはよろつにしのひかたき事のみそおほかりける日くらしのなく声に山のかけのみこひしくて

大かたにきかましものを日くらしの声うらめしき秋のくれ哉こよひはまたふけぬにいて給ふ也御さきの声のとをくなるまゝにあまもつりすはかりになるもわれなからにくき心かなと思ふ　くきゝふし給へりはしめよりものおもはせ給しありさまなとを思ひいつるもうとましきまておほゆこのなやましきこともいかならんとすらむいみしく命みしかきそうなれはかやうならんついてにもやとはかなくなりなむとす覧と思ふにはおしからねとかなしくもあり又いとつみふかくもあなるものをなとまとろまれぬまゝに思ひあかし給ふその日はきさいの宮なやましけにおはしますとてたれも　くまいり給へれと御風におはしましけれはことなる事もおはしまさすとておとゝはひるまかて給にけり中納言の君さそひきこえ給てひとつ御車にてそいて給にけるこよひのきしきいかならんきよらをつくさんとおほすへかめれとかきりあらんかしこの君も心はつかしけれとしたしきかたのおほえはわかかたさまに又さるへき人もおはせすものゝはえにせんに心ことにおはする人なれはなめりかしれいならすいそかしくまて給て人のうへにみなしたるをくちおしとも思たらすなにやかやともろ心にあつかひ給へるをおとゝは人しれすなまねたしとおほしけりよひすこし過る程におはしましたりしん殿のみなみのひさしひんかしによりておましまいれり御たゐやつれいの御さらなとうるはしけにきよらにてまたちいさきたいふたつに花そくの御さらなともいまめかしくせさせ給てもちゐまいらせたまへりめつらしからぬ事かきをくこそにくけれおとゝわたり給て夜いたうふけぬと女房してそゝのかし申給へといとあされてとみにもいてたまはす北の方の御はらからの左衛門督藤さい相なとはかりものし給からうしていて給へる御さまいとみるかひある心

ちすあるしの頭中将さか月さゝけて御たいまいるつき　くの御かはらけふたゝひみたひまいり給中納言のいたくすゝめ給へるに宮すこしほをゑみ給へりわつらはしきわたりをとふさはしからす思ていひしをおほしいつるなめりされとみしらぬやうにていとまめなりひんかしのたいにいて給て御とものの人　くもてはやし給おほえある殿上人ともいとおほかり四位六人は女のさうそくにほそなかそへて五ゐ十人はみへかさねのからきぬものこしもみなけちめあるへし六位四人はあやのほそなかはかまなとかつはかきりあることをあかすおほしけれはものゝ色しさまなとをそきよらをつくし給へりけるめしつきとねりなとのなかにはみたりかはしきまていかめしくなんありけるけにかくにきはゝしく花やかなる事はみるかひあれはものかたりなとにまつゐたてたるにやあらむされとくはしくはえそかそへたてさりけるとや中納言殿の御せんのなかになまおほえあさやかならぬやくらきまきれにたちましりたりけんかへりてうちなけきて我とのゝなとかおいらかにこの殿の御むこにうちならせ給ましきあちきなき御ひとりすみなりやと中もんのもとにてつふやきけるを聞つけ給ておかしとなんおほしけるよのふけてねふたきにかのもてかしつかれつる人　くは心ちよけにゑひみたれてよりふしぬらんかしとうらやましきなめりかし君はいりてふし給てはしたなけなるわさかなこと　くしけなるさましたるおやのいてゐてはなれぬなからひなれとこれかれひあかくかゝけてすゝめきこゆるさか月なとをいとめやすくもてなし給めりつるかなと宮の御ありさまをめやすく思ひいてたてまつり給けにわれにてもよしとおもふをんなこもたらましかはこの宮をゝきたてまつりてうちにたにえまいらせさらましと思ふにたれも　く宮にたてまつらんと心さし給へるむすめはなを源中納言にこそととり　くにいひならふなるこそ我おほえのくちおしくはあらぬなめりなさるはいとあまりよつかすふるめきたるものをなと心おこりせらるうちの御けしきあることまことにおほしたゝむにかくのみ物うくおほえはいかゝすへからんおもたゝしきことにはありともいかゝはあらむいかにそこきみにいとよく似給へらん時にうれしからむかしと思ひよらるゝはさすかにもてはなるましき心なめりかしれいのねさめかちなるつれ　くなれはあせちの君とて人よりはすこし思ひまし給へるかつほねにおはしてそのよはあかし給つあけすきたらむを人のとかむへきにもあらぬにくるしけにいそきおき給をたゝならす思ふへかめり

　うちわたしよにゆるしなきせきかはをみなれそめけん名こそおしけれいとおしけれは

ふかゝらすうへはみゆれとせきかはのしたのかよひはたゆる物かはふかし
との給はんにてたにたのもしけなきをこのうへのあさゝはいとゝこゝろやまし
くおほゆらむかしつま戸をしあけてまことはこのそらみ給へいかてかこれをし
らすかほにてはあかさんとよえんなる人まねにてはあらていとゝあかしかたく
なり行よな　くのねさめにはこの世かのよまてなむ思ひやられてあはれなるな
といひまきらはしてそいて給ことにおかしき事の数をつくさねとさまのなまめ
かしきみなしにやあらむなさけなくなとは人におもはれ給はすかりそめのたは
ふれことをもいひそめ給へる人のけちかくてみたてまつらはやとのみ思きこゆ
るにやあなかちによをそむき給へる宮の御方にえんをたつねつゝまいりあつま
りてさふらふもあはれなる事程　くにつけつゝおほかるへし宮は女君の御あり
さまひるみきこえ給にいとゝ御心さしまさりけりおほきさよき程なる人のやう
たいいときよけにてかみのさかりはかしらつきなとそものよりことにあなめて
たとみえ給ける色あひあまりなるまてにほひてもの　くしくけたかきかほのま
みいとはつかしけにらう　くしくすへて何事もたらひてかたちよき人といはむ
にあかぬところなし廿にひとつふたつそあまり給へりけるいはけなき程ならね
はかたなりにあかぬ所なくあさやかにさかりの花とみえ給へりかきりなくもて
かしつき給へるにかたほならすけにおやにては心もまとはし給つへかりけりた
ゝやはらかにあい行つきらうたき事そかのたいの御かたはまつおもほし出られ
けるものゝ給いらへなともはちらひたれと又あまりおほつかなくはあらすすへ
ていと見所おほくかと　くしけ也よきわか人とも卅人はかりわらは六人かたほ
なるなくさうそくなともれいのうるはしきことはめなれておほさるへかめれは
ひきたかへ心得ぬまてそこのみそし給へる三条殿はらの大君を春宮にまいらせ
給へるよりもこの御事をはことに思ひをきてきこえ給へるも宮の御おほえあり
さまからなめりかくて後二条の院にえ心やすくわたり給はすかるらかなる御身
ならねはおほすまゝにひるの程なともえいて給はねはやかておなしみなみのま
ちにとしころありしやうにおはしましてくるれは又えひきよきてもわたり給は
すなとしてまちとをなるおり　くあるをかゝらんとすることゝは思ひしかとさ
しあたりてはいとかくやはなこりなかるへきけに心あらむ人は数ならぬ身をし
らてましらふへき世にもあらさりけりとかへす　くも山ちわけいてけんほとう
つゝともおほえすくやしくかなしけれは猶いかてしのひてわたりなむむけにそ
むくさまにはあらすともしはし心をもなくさめはやにくけにもてなしなとせは
こそうたてもあらめなとこゝろひとつに思ひあまりてはつかしけれと中納言と

のにふみたてまつれ給一日の御事をはあさりのつたへたりしにくはしくきゝ侍
にきかゝる御心のなこりなからましかはいかにいとおしくと思給へらるゝにも
をろかならすのみなんさりぬへくは身つからもときこえ給へりみちのくにかみ
にひきつくろはすまめたちかき給へるしもいとおかしけ也宮の御き日にれいの
事ともいとたうとくせさせ給へりけるをよろこひ給へるさまのおとろ　くしく
はあらねとけに思ひしり給へるなめりかしれいはこれよりたてまつる御返をた
につゝましけにおもほしてはか　くしくもつゝけ給はぬを身つからとさへのた
まへるかめつらしくうれしきに心ときめきもしぬへし宮のいまめかしくこのみ
たち給へる程にておほしをこたりけるもけに心くるしくおしはからるれはいと
あはれにておかしやかなる事もなき御ふみをうちもをかすひき返し　くみゐ給
へり御かへりはうけ給りぬ一日はひしりたちたるさまにてことさらにしのひは
へしもさ思ひたまふるやう侍ころほひにてなんなこりとの給はせたるこそすこ
しあさく成にたるやうにとうらめしく思ふたまへらるれよろつはさふらひてな
んあなかしことすくよかにしろきしきしのこは　くしきにてありさて又の日の
ゆふつかたそわたり給へる人しれす思ふ心しそひたれはあいなく心つかいいた
くせられてなよゝかなる御そともをいとゝにほはしそへ給へるはあまりおとろ
おとろしきまてあるに丁しそめのあふきのもてならし給へるうつりかなとさへ
たとへんかたなくめてたし女君もあやしかりしよのことなと思いて給折　くな
きにしもあらねはまめやかにあはれなる御心はへの人にゝすものし給ふをみる
につけてもさてあらましをとはかりは思やし給覧いはけなき程にしおはせねは
うらめしき人の御ありさまをおもひくらふるには何事もいとゝこよなく思しら
れ給にやつねにへたておほかるもいとおしくもの思ひしらぬさまに思ひ給ふら
むなと思ひ給てけふはみすのうちにいれたてまつり給てもやのすたれにき丁そ
へて我はすこしひきいりてたいめんし給へりわさとめしと侍らさりしかとれい
ならすゆるさせ給へりしよろこひにすなはちもまいらまほしく侍りしを宮わた
らせ給ふとうけたまはりしかはおりあしくやはとてけふになし侍にけるさるは
とし比のこゝろのしるしもやう　くあらはれ侍にやへたてすこしうすらき侍に
けるみすのうちよめつらしく侍るわさかなとの給ふになをいとはつかしくいひ
いてんこと葉もなき心ちすれと一日うれしくきゝ侍し心のうちをれいのたゝむ
すほゝれなからすくし侍なは思しるかたはしをたにいかてかはとくちおしさに
といとつゝましけにの給かいたくしそきてたえ　くほのかにきこゆれは心もと
なくていと遠くも侍かなまめやかにきこえさせうけたまはらまほしき世の御も

のかたりも侍るものをとの給へはけにとおほしてすこしみしろきより給けはひをきゝ給にもふとむねうちつふるれとさりけなくいとゝしつめたるさまして宮の御こゝろはへおもはすにあさうおはしけりとおほしくかつはいひもうとめまたなくさめもかた　くにしつ　くときこえ給ひつゝおはす女君は人の御うらめしさなとはうちいてかたらひきこえ給ふへきことにもあらねはたゝ世やはうきなとやうにおもはせてことすくなにまきらはしつゝ山さとにあからさまにわたし給へとおほしくいとねんころに思ての給それはしもこゝろひとつにまかせてはえつかうまつるましきことに侍り猶宮にたゝ心うつくしくきこえさせ給て彼御けしきにしたかひてなんよく侍るへきさらすはすこしもたかひめありて心からくもなとおほしものせんにいとあしく侍なんさたにあるましくは道の程も御をくりむかへもおりたちてつかうまつらんになにのはゝかりかは侍らむうしろやすく人に似ぬ心のほとは宮もみなしらせ給へりなとはいひなからおり　くはすきにしかたのくやしさをわするゝおりなくものにもかなやとゝりかへさまほしきとほのめかしつゝやうやうくらくなりゆくまておはするにいとうるさくおほえてさらは心ちもなやましくのみ侍を又よろしく思給へられん程に何事もとていり給ぬるけしきなるかいとくちおしけれはさてもいつはかりおほしたつへきにかいとしけくはへしみちの草もすこしうちははらはせ侍らんかしと心とりにきこえ給へはしはしいりさしてこの月はすきぬめれはついたちの程にもとこそは思侍れたゝいとしのひてこそよからめなにかよのゆるしなとこと　くしくとの給声のいみしくらうたけなるかなとつねよりもむかし思いてらるゝにえつゝみあへてよりゐ給へるはしらもとのすたれのしたよりやをらをよひて御そてをとらへつ女さりやあな心うと思になに事かはいはれんものもいはていとゝひきいり給へはそれにつきていとなれかほになからはうちにいりてそひふし給へりあらすやしのひてはよかるへくおほすこともありけるかうれしきはひかみゝかきこえさせんとそうと　くしくおほすへきにもあらぬを心うのけしきやとうらみ給へはいらへすへき心ちもせす思はすににくゝ思なりぬるをせめておもひしつめて思ひのほかなりける御心の程かな人の思らんことよあさましとあはめてなきぬへきけしきなるすこしはことはりなれはいとおしけれとこれはとかあるはかりの事かはかはかりのたいめんはいにしへをもおほしいてよかしすきにし人の御ゆるしもありし物をいとこよなくおほしけるこそ中　くうたてあれすき
　くしくめさましき心はあらしと心やすくおもほせとていとのとやかにはもてなし給へれと月比くやしとおもひわたる心のうちのくるしきまてなりゆくさま

をつく　くといひつゝけ給てゆるすへきけしきにもあらぬにせんかたなくいみしともよのつね也中　くむけに心しらさらん人よりもはつかしく心つきなくてなき給ぬるをこはなそあなわか　くしとはいひなからいひしらすらうたけに心くるしきものからようゐふかくはつかしけなるけはひなとのみし程よりもこよなくねひまさり給にけるなとをみるに心からよそ人にしなしてかくやすからすものを思ふ事とくやしきにも又けにねはなかれけりちかくさふらふ女房ふたりはかりあれとすゝろなるおとこのうちいりきたるならはこそはこはいかなることとそともまいりよらめうとからすきこえかはし給御なからひなめれはさるやうこそはあらめと思にかたはらいたけれはしらすかほにてやをらしそきぬるにいとおしきやおとこ君はいにしへをくゆる心のしのひかたさなともいとしつめかたかりぬへかめれとむかしたにありかたかりし心のよういなれはなをいと思ひのまゝにももてなしきこえ給はさりけりかやうのすちはこまかにもえなんまねひつゝけさりけるかいなき物から人めのあいなきを思へはよろつにおもひかへしていて給ぬまたよひと思ひつれとあか月ちかうなりにけるをみとかむる人もやあらんとわつらはしきも女の御ためのいとおしきそかしなやましけにきゝわたる御心ちはことはりなりけりいとはつかしとおほしたりつるこしのしるしにおほくは心くるしくおほえてやみぬるかなれいのおこかましのこゝろやと思へとなさけなからむ事はなをいとほいなかるへし又たちまちの我心のみたれにまかせてあなかちなる心をつかひてのち心やすくしもはあらさらむものからわりなくしのひありかん程も心つくしに女のかた　くおほしみたれん事よなとさかしく思にせかれすいまのまもこひしきそわりなかりけるさらにみてはえあるましくおほえ給もかへす　くあやにくなるこゝろなりやむかしよりはすこしほそやきてあてにらうたかりつるけはひなとはたちはなれたりともおほえす身にそひたる心ちしてさらにこと　くもおほえすなりにたりうちにいとわたらまほしけにおほいためるをさもやわたしきこえてましなと思へとまさに宮はゆるし給てんやさりとて忍ひてはたいとひんなからむいかさまにしてかは人めみくるしからて思ふ心のゆくへきと心もあくかれてなかめふし給へりまたいとふかきあしたに御ふみありれいのうはへはけさやかなるたてふみにて

いたつらにわけつる道の露しけみむかしおほゆる秋の空哉御けしきの心うさはことはりしらぬつらさのみなん聞えさせむ方なくとあり御返しなからむも人のれいならすとみとかむへきをいとくるしけれはうけ給りぬいとなやましくてえ聞えさせすとはかりかきつけ給へるをあまりことすくなゝるかなとさう

くしくておかしかりつる御けはひのみこひしく思ひいてらるすこしよのなかをもしり給へるけにやさはかりあさましくわりなしとはおもひ給へりつるものからひたふるにいふせくなとはあらていとらう　くしくはつかしけなるけしきもそひてさすかになつかしくいひこしらへなとしていたし給へる程の心はへなとを思ひ出るもねたくかなしくさま　くに心にかゝりてわひしくおほゆ何事もいにしへにはいとおほくまさりて思出らるなにかはこの宮かれはて給ひなはわれをたのもし人にし給ふへきにこそはあめれさてもあらはれて心やすきさまにえあらしをしのひつゝ又おもひます人なき心のとまりにてこそはあらめなとたゝこの事のみつとおほゆるそけしからぬ心なるやさはかりこゝろふかけにさかしかり給へとおとこといふものゝ心うかりける事よなき人の御かなしさはいふかひなき事にていとかくくるしきまてはなかりけりこれはよろつにそおもひめくらされ給ひけるけふは宮わたらせ給ぬなと人のいふをきくにもうしろみの心はうせてむねうちつふれていとうらやましくおほゆ宮はひころに成にけるは我心さへうらめしくおほされてにはかにわたり給へるなりけりなにかは心へたてたるさまにもみえたてまつらし山さとにと思たつにもたのもし人に思ふひともうとましき心そひ給へりけりとみ給に世中いと所せくおもひなられて猶いとうき身也けりとたゝきえせぬほとはあるにまかせておひらかならんとおもひはてゝいとらうたけにうつくしきさまにもてなしてゐ給へれはいとゝあはれにうれしくおほされて日比のおこたりなとかきりなくの給ふ御はらもすこしふくらかになりにたるにかのはち給しるしのおひのひきゆはれたるほとなといとあはれにまたかゝる人をちかくてもみ給はさりけれはめつらしくさへおほしたりうちとけぬ所にならひ給てよろつのこと心やすくなつかしくおほさるゝまゝにおろかならぬ事ともをつきせすちきりのたまふをきくにつけてもかくのみことよきわさにやあらむとあなかちなりつる人の御けしきもおもひいてられてとし比あはれなる心はへなとは思わたりつれとかゝるかたさまにてはあれをもあるましきことゝ思ふにそこの御ゆくさきのたのめはいてやと思ひなからもすこしみゝとまりけるさてもあさましくたゆめ　くていりきたりしほとよむかしの人にうとくてすきにし事なとかたり給し心はへはけにありかたかりけりと猶うちとくへくはたあらさりけりかしなといよ　く心つかひせらるゝにもひさしくとたえ給んことはいとものおそろしかるへくおほえたまへはことにいてゝはいはねとすきぬるかたよりはすこしまつはしさまにもてなし給へるを宮はいとゝかきりなくあはれとおもほしたるにかの人の御うつり香のいとふかくしみ給へるかよ

のつねのかうのかにいれたきしめたるにもにすしるき匂ひなるをそのみちの人にしおはすれはあやしとゝかめいて給ていかなりしことそとけしきとり給にことのほかにもてはなれぬ事にしあれはいはんかたなくわりなくていとくるしとおほしたるをされはよかならすさることはありなんよもたゝにはおもはしと思ひわたる事そかしと御心さはきけりさるはひとへの御そなともぬきかへ給てけれとあやしく心よりほかにそ身にしみにけるかはかりにてはのこりありてしもあらしとよろつにきゝにくゝの給つゝくるに心うくて身そをき所なきおもひきこゆるさまことなるものをわれこそさきになとかやうにうちそむくきはゝことにこそあれ又御心をき給はかりの程やはへぬる思ひのほかにうかりける御心かなとすへてまねふへくもあらすいとおしけにきこえ給へとともかくもいらへ給はぬさへいとねたくて

　また人になれける袖のうつりかをわか身にしめてうらみつる哉女はあさましくの給ひつゝくるにいふへきかたもなきをいかゝはとて

　みなれぬる中のころもとたのめしをかはかりにてやかけはなれなんとてうちなき給へるけしきのかきりなくあはれなるをみるにもかゝれはそかしといと心やましくてわれもほろ　くとこほし給そいろめかしき御心なるやまことにいみしきあやまちありともひたふるにはえそうとみはつましくらうたけに心くるしきさまのし給へれはえもうらみはて給はすの給ひさしつゝかつはこしらへきこえ給又の日も心のとかにおほとのこもりおきて御てうつ御かゆなともこなたにまいらす御しつらひなともさはかりかゝやくはかりこまもろこしのにしきあやをたちかさねたるめうつしにはよのつねにうちなれたる心地して人　くのすかたもなえはみたるうちましりなとしていとしつかにみまはさるきみはなよゝかなるうす色ともになてしこのほそなかかさねてうちみたれ給へる御さまの何事もいとうるはしくこと　くしきまてさかりなる人の御よそひなにくれに思くらふれとけをとりてもおほえすなつかしくおかしきも心さしのをろかならぬにはちなきなめりかしまろにうつくしくこえたりし人のすこしほそやきたるに色はいよ　くしろくなりてあてにおかしけ也かゝる御うつり香なとのいちしるからぬおりたにあい行つきらうたき所なとのなを人にはおほくまさりておほさるゝまゝにはこれをはらからなとにはあらぬ人のけちかくいひかよひてことにふれつゝをのつから声けはひをもきゝみなれんはいかてかたゝにもおもはんかならすしかおほしぬへきことなるをとわかいとくまなき御心ならひにおほししらるれはつねに心をかけてしるきさまなるふみなとやあるとちかきみつしこから

ひつなとやうのものをもさりけなくてさかし給へとさるものもなしたゝいとすくよかにことすくなにてなを　くしきなとそわさともなけれとものにとりませなとしてもあるをあやし猶いとかうのみはあらしかしとうたかはるゝにいとゝけふはやすからすおほさるゝ事わりなりかしかの人のけしきも心あらむ女のあはれと思ぬへきをなとてかは事のほかにはさしはなたんいとよきあはひなれはかたみにそ思ひかはすらむかしと思やるそわひしくはらたゝしくねたかりけるなをいとやすからさりけれはその日もえいて給はす六条院には御ふみをそふたゝひ三たひたてまつり給ふをいつのほとにつもる御ことの葉ならんとつふやくおひ人ともあり中納言のきみはかく宮のこもりおはするをきくにしも心やましくおほゆれとわりなしやこれは我心のおこかましくあしきそかしうしろやすくとおもひそめてしあたりのことをかくは思へしやとしゐてそ思ひかへしてさはいへとえおほしすてさめりかしとうれしくもあり人　くのけはひなとのなつかしき程になえはみためりしをと思ひやり給てはゝ宮の御方にまいり給てよろしきまうけの物ともやさふらふつかうへきことなと申給へはれいのたゝむ月のほうしのれうにしろき物ともやあらむそめたるなとはいまはわさともしをかぬをいそきてこそせさせめとの給へはなにかこと　くしきようにも侍らすさふらはんにしたかひてとてみくしけとのなとにとはせ給て女のさうそくともあまたくたりにほそなかともゝたゝあるにしたかひてたゝなるきぬあやなとゝりくし給みつからの御れうとおほしきには我御れうにありけるくれなゐのうちめなへてならぬにしろきあやともなとあまたかさね給へるにはかまのくはなかりけるにいかにしたりけるにかこしのひとつあるをひきむすひくはへて

むすひける契ことなるしたひもをたゝひとすちにうらみやはするたいふの君とておとなしき人のむつましけなるにつかはすとりあへぬさまのみくるしきをつきつきしくもてかくしてなとの給て御れうのはしのひやかなれとはこにてつゝみもことなり御覧せさせねとさき　くもかやうなる御心しらひはつねのことにてめなれにたれはけしきはみかへしなとひこしろふへきにもあらねはいかゝとも思わつらはて人　くにとりちらしなとしたれはをの　くさしぬひなとすわかき人　くの御まへちかくつかうまつるなとをそとりわきてはつくろひたつへきしもつかへとものいたくなえはみたりつるすかたともなとにしろきあはせなとにてけちえんならぬそ中　くめやすかりけるたれかは何事をもうしろみかしつききこゆる人のあらむ宮はをろかならぬ御心さしの程にてよろつをいかてとおほしをきてたれとこまかなるうち　くの事まてはいかゝはおほしよらむか

きりもなく人にのみかしつかれてならはせ給へれは世の中うちあはすさひしきことといかなるものともしり給はぬことはりなりえんにそゝろさむくはなの露をもてあそひてよはすくすへきものとおほしたるほとよりはおほすひとのためなれはをのつからおりふしにつけつゝまめやかなる事まてもあつかひしらせ給こそありかたくめつらかなることなめれはいてやなとそしらはしけにきこゆる御めのとなともありけりわらはへなとのなりあさやかならぬおり　くうちましりなとしたるをも女君はいとはつかしく中　くなるすまゐにもあるかなゝと人しれすはおほす事なきにしもあらぬにましてこのころはよにひゝきたる御ありさまのはなやかさにかつは宮のうちの人のみ思はんことも人けなきことゝおほしみたるゝこともそひてなけかしきを中納言の君はいとよくおしはかり聞え給へはうとからむあたりにはみくるしくくた　くしかりぬへき心しらひのさまもあなつるとはなけれとなにかはこと　くしくしたてかほならむも中　くおほえなくみとかむる人やあらんとおほすなりけりいまそ又れいのめやすきさまなるものともなとせさせ給て御こうちきをらせあやのれうたまはせなとし給けるこの君しもそ宮にをとりきこえたまはすさまことにかしつきたてられてかたはなるまて心おこりもしよを思すましてあてなる心はへはこよなけれとこみこの御山すみをみそめ給しよりそさひしき所のあはれさはさまことなりけりと心くるしくおほされてなへての世をも思ひめくらしふかきなさけをもならひ給にけるいとおしの人ならはしやとそかくてなをいかてうしろやすくおとなしき人にてやみなんと思ふにもしたかはす心にかゝりてくるしけれは御ふみなとをありしよりはこまやかにてともすれはしのひあまりたるけしきみせつゝきこえ給を女君いとわひしき事そひたる身とおほしなけかるひとへにしらぬ人ならはあなものくるおしとはしたなめさしはなたんにもやすかるへきをむかしよりさまことなるたのもし人にならひきて今さらになかあしくならむも中　く人めあしかるへしさすかにあさはかにもあらぬ御心はへありさまのあはれをしらぬにはあらすさりとて心かはしかほにあひしらはんもいとつゝましくいかゝはすへからむとよろつにおもひみたれ給さふらふ人　くもすこしものゝいふかひありぬへくわかやかなるはみなあたらしみなれたるとてはかの山さとのふる女はら也思ふ心をもおなし心になつかしくいひあはすへき人のなきまゝにはこひめきみを思いて聞え給はぬおりなしおはせましかはこの人もかゝる心をそへ給はましやといとかなしく宮のつらくなり給はんなけきよりもこの事いとくるしくおほゆおとこ君もしゐて思ひわひてれいのしめやかなるゆふつかたおはしたりやかてはし

に御しとねさしいてさせ給ていとなやましきほとにてなんえきこえさせぬと人してきこえいたし給へるをきくにいみしくつらくてなみたおちぬへきを人めにつゝめはしゐてまきらはしてなやませ給おりはしらぬそうなともちかくまいりよるをくすしなとのつらにてもみすのうちにはさふらふましくやはかく人つてなる御せうそこなむかひなき心ちするとの給ていとものしけなる御けしきなるをひとよものゝけしきみし人　くけにいとみくるしく侍めりとてもやのみすうちおろしてよひのそうのさにいれたてまつるを女君まことに心ちもいとくるしけれと人のかくいふにけちえんにならむも又いかゝとつゝましけれはものうなからすこしゐさりいてゝたいめんし給へりいとほのかに時　く物の給ふ御けはひのむかし人のなやみそめ給へりし比まつ思出らるゝもゆゝしくかなしくてかきくらす心ちし給へはとみにものもいはれすためらひてそきこえ給こよなくおくまり給へるもいとつらくてすのしたよりき丁をすこしおしいれてれいのなれ　くしけにちかつきより給かいとくるしけれはわりなしとおほして少将といひし人をちかくよひよせてむねなんいたきしはしおさへてとの給ふを聞てむねはおさへたるはいとくるしく侍る物をとうちなけきてゐなをり給ほともけにそしたやすからぬいかなれはかくしもつねになやましくはおほさるらむ人にとひ侍しかはしはしこそ心ちはあしかなれさて又よろしきおりありなとこそをしへはへしかあまりわか　くしくもてなさせ給なめりとの給にいとはつかしくてむねはいつともなくかくこそは侍れむかしの人もさこそはものし給しかなかゝるましき人のするわさとか人もいひ侍めるとその給ふけにたれもちとせのまつならぬよをと思ふにはいと心くるしくあはれなれはこのめしよせたる人のきかんもつゝまれすかたはらいたきすちのことをこそえりとゝむれ昔より思ひきこえしさまなとをかの御みゝひとつには心えさせなから人はかたわにもきくましきさまにさまよくめやすくそいひなし給をけにありかたき御心はへにもときゝゐたりけり何事につけてもこ君の御事をそつきせす思ひ給へるいはけなかりし程より世中をおもひはなれてやみぬへきこゝろつかひをのみならひはへしにさるへきにや侍けんうときものからをろかならすおもひそめきこえ侍しひとふしにかのほいのひしり心はさすかにたかひやしにけんなくさめはかりにこゝにもかしこにもゆきかゝつらひて人のありさまをみんにつけてまきるゝこともやあらんなと思ひよるおり　く侍れとさらにほかさまにはなひくへくもはへらさりけりよろつに思給わひては心のひくかたのつよからぬわさなりけれはすきかましきやうにおほさるらむとはつかしけれとあるましき心のかけてもあるへくはこそ

めさましからめたゝかはかりのほとにてとき　く思ふ事をもきこえさせうけたまはりなとしてへたてなくの給かよはむを誰かはとかめいつへきよの人にゝぬ心の程はみな人にもとかるましくはへるを猶うしろやすくおほしたれなとうらみみなきみきこえ給うしろめたく思ひきこえはかくあやしと人もみおもひぬへきまてはきこえ侍るへくやとしころこなたかなたにつけつゝみしる事ともの侍しかはこそさまことなるたのもし人にていまはこれよりなとおとろかしきこゆれとの給へはさやうなるおりもおほえはへらぬものをいとかしこきことにおほしをきてのたまはするやこの御山さといてたちいそきにからうしてめしつかはせ給へきそれもけに御覧ししるかたありてこそはとをろかにやは思ひ侍なとの給てなをいとものうらめしけなれときく人あれは思ふまゝにもいかてかはつゝけ給はんとのかたをなかめいたしたれはやう　くくらくなりにたるにむしの声はかりまきれなくて山のかたをくらくなにのあやめもみえぬにいとしめやかなるさましてよりゐ給へるもわつらはしとのみうちにはおほさるかきりたにあるなと忍ひやかにうちすむして思ふたまへわひにて侍りをとなしのさともとめまほしきをかの山さとのわたりにわさととてらなとはなくともむかしおほゆる人かたをもつくりゑにもかきとりてをこなひ侍らむとなん思ふ給へなりにたるとの給へはあはれなる御ねかひに又うたてみたらしかはちかき心地する人かたこそ思ひやりいとおしくはへれこかねもとむるゑしもこそなとうしろめたくそ侍やとの給へはそよそのたくみもゑしもいかてか心にはかなふへきわさならんちかき世に花ふらせたるたくみも侍りけるをさやうならむへ化の人もかなととさまかうさまに忘んかたなきよしをなけき給ふけしきの心ふかけなるもいとおしくていますこしちかくすへりよりて人かたのついてにいとあやしく思ひよるましき事をこそ思ひいてはへれとの給ふけはひのすこしなつかしきもいとうれしくあはれにて何事にかといふまゝにき丁のしたよりてをとらふれはいとうるさく思ひならるれといかさまにしてかゝる心をやめてなたらかにあらんとおもへはこのちかき人のおもはんことのあいなくてさりけなくもてなし給へりとし比はよにやあらむともしらさりつる人のこのなつころとをき所よりものして尋いてたりしをうとくは思ましけれと又うちつけにさしもなにかはむつひ思はんと思侍しをさいつ比きたりしこそあやしきまてむかし人の御けはひにかよひたりしかはあはれにおほえなりにしかゝたみなとかうおほしの給めるは中　く何事もあさましくもてはなれたりとなんみる人　くもいひ侍しをいとさしもあるましきひとのいかてかはさはありけんとの給をゆめかたりかとまてきくさるへきゆ

へあれはこそはさやうにもむつひきこえらるらめなとか今まてかくもかすめさせ給はさらんとの給へはいさやそのゆへもいかなりけん事とも思ひわかれ侍らすものはかなきありさまともにてよにおちとまりさすらへんとすらむことゝのみうしろめたけにおほしたりし事ともをたゝひとりかきあつめて思ひしられ侍に又あいなきことをさへうちそへて人もきゝつたへんこそいと　くおしかるへけれとの給けしきみるに宮のしのひてものなとの給ひけん人のしのふくさつみをきたりけるなるへしとみしりぬにたりとの給ゆかりにみゝとまりてかはかりにてはおなしくはいひはてさせ給うてよといふかしかり給へとさすかにかたはらいたくてえこまかにもきこえ給はす尋んとおほす心あらはそのわたりとは聞えつへけれとくはしくしもえしらすや又あまりいはゝ心をとりもしぬへき事になんとの給へはよをうみなかにもたまのありか尋ねには心のかきりすゝみぬへきをいとさまて思ふへきにはあらさなれといとかくなくさめんかたなきよりはと思ひより侍ひとかたのねかひはかりにはなとかは山さとの本そんにも思はへらさらんなをたしかにの給はせよとうちつけにせめきこえ給いさやいにしへの御ゆるしもなかりしことをかくまてもらしきこゆるもいとくちかるけれとへ化のたくみもとめ給いとおしさにこそかくもとていととをき所にとし比へにけるをはゝなる人のうれはしきことに思ひてあなかちに尋よりしをはしたなくもえいらへてはへりしにものしたりし也ほのかなりしかはにやなに事も思し程よりはみくるしからすなんみえしこれをいかさまにもてなさむとなけくめりしにほとけにならんはいとこよなきことにこそはあらめさまてはいかてかはなときこえ給さりけなくてかくうるさき心をいかてゝひはなつわさもかなと思ひ給へるとみるはつらけれとさすかにあはれ也あるましき事とはふかく思ひ給へるものからけせうにはしたなきさまにはえもてなし給はぬもみしり給へるにこそはと思ふ心ときめきによもいたくふけゆくをうちには人めいとかたはらいたくおほえ給てうちたゆめていり給ぬれはおとこ君ことはりとは返　くおもへとなをいとうらめしくゝちおしきに思ひしつめんかたもなき心地して涙のこほるゝも人わろけれはよろつに思ひみたるれとひたふるにあさはかならむもてなしはたなをいとうたて我ためもあいなかるへけれはねんし返してつねよりもなけきかちにていて給ぬかくのみ思ひてはいかゝすへからむくるしくもあるへきかないかにしてかはおほかたのよにはもときあるましきさまにてさすかに思ふ心のかなふわさをすへからむなとおりたちてれむしたる心ならねはにや我ため人のためも心やすかるましき事をわりなくおほしあかすに似たりとの給つる人もいかて

かはまことかとはみるへきさはかりのきはなれは思ひよらんにかたくはあらすとも人のほいにもあらすはうるさくこそあるへけれなとなをそなたさまには心もたゝすうちの宮をひさしくみ給はぬ時はいとゝむかしとをくなる心ちしてすゝろに心ほそけれは九月廿よ日はかりにおはしたりいとゝしく風のみふきはらひて心すこくあらましけなる水のをとのみやともりにて人かけもことにみえすみるにはまつかきくらしかなしき事そかきりなき弁のあまめしいてたれはさうしくちにあをにひのき丁さしいてゝまいれりいとかしこけれとましていとおそろしけに侍れはつゝましくてなむとまほにはいてこすいかになかめ給らんとおもひやるにおなし心なる人もなきものかたりもきこえんとてなんはかなくもつもるとし月かなとて涙をひとめうけておはするに老ひとはいとゝさらにせきあへす人のうへにてあいなくものをおほすめりしころの空そかしと思給へいつるにいつと侍らぬなるにも秋の風は身にしみてつらくおほえ侍てけにかのなけかせ給めりしもしるき世の中の御ありさまをほのかにうけたまはるもさま　くになんときこゆれはとある事もかゝることもなからふれはなほるやうもあるをあちきなくおほししみけんこそ我あやまちのやうになをかなしけれこの比の御ありさまはなにかそれこそよのつねなれされとうしろめたけにはみえきこえさめりいひても　くむなしき空にのほりぬるけふりのみこそたれものかれぬ事なからをくれさきたつほとは猶いといふかひなかりけりとても又なき給ぬあさりめしてれいのかのき日の経仏なとの事の給さてこゝに時ゝものするにつけてもかいなきことのやすからすおほゆるかいとやくなきをこのしん殿こほちてかの山てらのかたはらにたうたてむとなん思ふをおなしくはとくはしめてんとの給てたういくつらうともそうはうなとあるへき事ともかきいての給せさせ給ふをいとたうときことゝ聞えしらすむかしの人のゆへある御すまゐにしめつくり給けん所をひきこほたんなさけなきやうなれとその御心さしもくとくのかたにはすゝみぬへくおほしけんをとまり給んひと　くおほしやりてえさはをきて給はさりけるにやいまは兵部卿の宮のきたのかたこそはしり給へけれはかの宮の御りやうともいひつへくなりにたりされはこゝなからてらになさんことはひんなかるへし心にまかせてさもえせし所のさまもあまりかはつらちかくけせうにもあれはなをしん殿をうしなひてことさまにもつくりかへんの心にてなんとの給へはとさまかうさまにいともかしこくたうとき御心なりむかしわかれをかなしひてかはねをつゝみてあまたのとしくひにかけて侍ける人も仏の御はうへんにてなんかのかはねのふくろをすてゝつゐにひしりのみちにもいり侍にけるこのし

ん殿を御覧するにつけて御心うこきおはしますらんひとつにはたい　くしき事
なり又後の世のすゝめともなるへきことに侍けりいそきつかうまつるへしこよ
みのはかせはからひ申て侍らむ日をうけ給りてものゝゆへしりたらんたくみ二
三人をたまはりてこまかなる事ともは仏の御をしへのまゝにつかうまつらせ侍
らむと申とかくの給さためてみさうの人ともめしてこのほとのことゝもあさり
のいはんまゝにすへきよしなとおほせ給はかなく暮ぬれはその夜はとまり給ぬ
このたひはかりこそみめとおほしてたちめくりつゝみ給へは仏もみな彼てらに
うつしてけれはあま君のをこなひの具のみありいとはかなけにすまひたるをあ
はれにいかにしてすくすらんとみ給このしんてんはかへてつくるへきやうあり
つくりいてん程はかのらうにものし給へ京の宮にとりわたさるへきものなとあ
らはさうの人めしてあるへからむやうにものし給へなとまめやかなる事ともを
かたらひ給ほかにてはかはかりにさた過なん人を何かとみいれ給へきにもあら
ねとよるもちかくふせてむかしものかたりなとせさせ給故権大納言の君の御あ
りさまもきく人なきに心やすくていとこまやかにきこゆいまはとなり給しほと
にめつらしくおはしますらん御ありさまをいふかしきものに思きこえさせ給め
りし御けしきなとのおもひ給へ出らるゝにかくおもひかけ侍らぬよのするにか
くてみたてまつり侍なんかの御よにむつましくつかうまつりをきししるしのを
のつから侍けるとうれしくもかなしくも思ひ給へられはへる心うき命の程にて
さま　くの事をみ給へすくし思ひ給へしり侍るなんいとはつかしくこゝろうく
はへる宮よりも時　くはまいりてみたてまつれおほつかなくたえこもりはてぬ
るはこよなくおもひへたてけるなめりなとの給はするおり　く侍れとゆゝしき
身にてなんあみた仏よりほかにはみたてまつらまほしき人もなくなりて侍なと
きこゆこひめ君の御事ともはたつきせすとし比の御ありさまなとかたりてなに
のおりなにとの給し花紅葉の色をみてもはかなくよみ給けるうたかたりなとを
つきなからすうちわなゝきたれとこめかしくことすくなゝるものからおかしか
りける人の御心はえかなとのみいとゝきゝそへ給宮の御方はいますこしいまめ
かしきものから心ゆるさゝらん人のためにはゝしたなくもてなし給ひつへくこ
そものし給めるをわれにはいとこゝろふかくなさけ　くしとはみえていかてす
こしてんとこそ思ひ給へれなと心のうちに思ひくらへ給さてものゝついてにか
のかたしろのことをいひいて給へり京にこのころ侍らんとはえしり侍らす人つ
てにうけ給りし事のすちなゝりこ宮のまたかゝる山さとすみもし給はす故きた
のかたのうせ給へりける程ちかゝりける比中将の君とてさふらひける上らうの

心はせなともけしうはあらさりけるをいと忍ひてはかなき程に物の給はせける
しる人も侍らさりけるに女こをなんうみて侍けるをさもやあらんとおほす事の
ありけるからにあいなくわつらはしくものしきやうにおほしなりて又とも御覧
しいるゝこともなかりけりあいなくそのことにおほしこりてやかておほかたひ
しりにならせ給ひにけるをはしたなく思ひてえさふらはすなりにけるかみちの
国のかみのめになりたりけるをひとゝせのほりてそのきみたいらかにものし給
ふよしこのわたりにもほのめかし申たりけるをきこしめしつけてさらにかゝる
せうそこあるへきことにもあらすとのたまはせはなちけれはかひなくてなんな
けき侍りけるさて又ひたちになりてくたりはへりにけるかこのとし比をとにも
聞え給はさりつるか此春のほりてかの宮には尋ねまいりたりけるとなんほのか
にきゝ侍しかの君のとしはゝたちはかりになり給ぬらんかしいとうつくしくお
いいて給ふかかなしきなとゝそなか比はふみにさへかきつゝけてはへめりしか
ときこゆくはしくきゝあきらめ給てさらはまことにてもあらんかしみはやと思
ふこゝろいてきぬむかしの御けはひにかけてもふれたらんは人はしらぬ国まて
も尋しらまほしき心あるをかすまへ給はさりけれとちかき人にこそはあなれわ
さとはなくともこの渡りにをとなふおりあらむついてにかくなんいひしとつた
へ給へなとはかりの給をく母君は故北の方の御めいなり弁もはなれぬ中らひに
侍へきをそのかみはほか　くに侍りてくはしくもみ給へなれさりきさいつ比京
よりたいふかもとより申たりしはかのきみなんいかてかの御はかにたにまいら
んとの給ふなるさる心よせなと侍しかとまたこゝにさしはへてはをとなはすは
へめりいまさらはさやのついてにかゝるおほせなとつたへ侍らむときこゆあけ
ぬれはかへり給はんとてよへをくれてもてまいれるきぬわたなとやうのものあ
さりにをくらせ給あま君にもたまふほうしはらあま君のけすとものれうにとて
ぬのなといふものをさへめしてたふ心ほそきすまゐなれとかゝる御とふらひた
ゆまさりけれは身のほとにはめやすくしめやかにてなんをこなひけるこからし
のたへかたきまてふきとをしたるに残るこすゑもなくちりしきたるもみちをふ
みわけゝる跡もみえぬをみわたしてとみにもえいて給はすいとけしきあるみ山
きにやとりたるつたの色そまたのこりたるこたになとすこしひきとらせ給て宮
へとおほしくてもたせ給
　やとりきと思ひいてすはこのもとのたひねもいかにさひしからましとひと
りこち給をきゝてあまきみ
　あれはつるくちきのもとをやとりきと思ひをきける程のかなしさあくまて

ふるめきたれとゆへなくはあらぬをそいさゝかのなくさめにはおほしける宮にもみちたてまつれたまへれはおとこみやおははしましけるほとなりけりみなみの宮よりとて何心もなくもてまいりたるを女君れいのむつかしきこともこそとくるしくおほせととりかくさんやは宮おかしきつたかなとたゝならすの給てめしよせてみ給ふ御ふみにはひころなに事かおははしますらむ山さとにものし侍りていとゝみねのあさきりにまとひ侍つる御ものかたりも身つからなんかしこのしん殿たうになすへき事あさりにいひつけ侍にき御ゆるし侍りてこそはほかにうつすこともものしはへらめ弁のあまにさるへきおほせ事はつかはせなとそあるよくもつれなくかき給へるふみかなまろありとそきゝつらむとの給もすこしはけにさやありつらん女君は事なきをうれしと思給ふにあなかちにかくの給ふをわりなしとおほしてうちゑんしてゐ給える御さまよろつのつみゆるしつへくおかしかへりことかき給へみしやとてほかさまにむき給へりあまえてかゝさらむもあやしけれは山さとの御ありきのうらやましくも侍るかなかしこはけにさやにてこそよくと思ひ給へしをことさらに又いはほのなかもとめんよりはあらしはつましく思ひ侍をいかにもさるへきさまになさせ給はゝおろかならすなんときこえ給かくにくきけしきもなき御むつひなめりとみ給なから我御心ならひにたゝならしとおほすかやすからぬなるへしかれ　くなるせんさいのなかにおはなのものよりことにてゝをさしいてまねくかおかしくみゆるにまたほにいてさしたるも露をつらぬきとむる玉のをはかなけにうちなひきたるなとれいのことなれとゆふかせ猶あはれなる比なりかし

　ほにいてぬもの思ふらしゝのすゝきまねくたもとの露しけくしてなつかしきほとの御そともになおしはかりき給てひわをひきゐ給へりわうしきてうのかきあはせをいとあはれにひきなし給へは女君も心にいり給へることにてものえんしもえしはてたまはすちいさきみき丁のつまよりけうそくによりかゝりてほのかにさしいて給へるいとみまほしくらうたけなり

　秋はつる野辺のけしきもしのすゝきほのめく風につけてこそしれわか身ひとつのとてなみたくまるゝかさすかにはつかしけれはあふきをまきらはしておはする御心のうちもらうたくをしはからるれとかゝるにこそ人もえ思ひはなたさらめとうたかはしきかたゝならてうらめしきなめり菊のまたよくうつろひはてゝわさとつくろひたてさせ給へるはなか　くをそきにいかなるひともとにかあらむいと見所ありてうつろひたるをとりわきておらせ給て花のなかにひとへにとすし給てなにかしのみこの花めてたるゆふへそかしいにしへ天人のかけり

てひわの手をしへけるは何事もあさく成にたる世はものうしやとて御こととさし
をき給ふをくちおしとおほして心こそあさくもあらめむかしをつたへたらむこ
とさへはなとてかさしもとておほつかなきてなとをゆかしけにおほしたれはさ
らはひとりことはさう　くしきにさしいらへし給へかしとて人めしてさうの御
こととりよせさせてひかせたてまつり給へとむかしこそまねふ人ももの し給し
かはか　くしくひきもとめすなりにしものをとつゝましけにて手もふれ給はね
はかはかりの事もへたて給へるこそ心うけれこの比みるわたりまたいと心と
くへきほとにもあらねとかたなりなるうゐことをもかくさすこそあれすへて
女はやはらかに心うつくしきなんよきことゝこそ其中納言もさたむめりしか
かのきみにはたかくもつゝみ給はしこよなき御中なめれはなとまめやかにうら
みられてそ打なけきてすこししらへ給ふゆるひたりけれはゝんしきてうにあは
せ給かきあはせなとつまをとけおかしけにきこゆいせのうみうたひ給ふ御声の
あてにおかしきを女はうもものゝうしろにちかつきまいりてゐみひろこりてゐ
たりふた心おはしますはつらけれとそれもことはりなれはなをわかおまへをは
さいはひ人とこそは申さめかゝる御ありさまにましらひ給へくもあらさりし所
の御すまゐを又かへりなまほしけにおほしての給はするこそいと心うけれな
とたゝいひにいへはわかき人　くはあなかまやなとせいす御ことゝもをしへた
てまつりなとして三四日こもりおはして御ものいみなとことつけ給をかのとの
にはうらめしくおほしておとゝうちよりいて給けるまゝにこゝにまいり給へれ
は宮こと　くしけなるさましてなにしにいましつるそとよとむつかり給へとあ
なたにわたり給てたいめんし給ふことなる事なきほとはこのゐんをみて久しく
なり侍るもあはれにこそなとむかしの御ものかたりともすこしきこえ給てやか
てひきつれきこえ給ていて給ぬ御こともののとのはらさらぬかんたちめ殿上人な
ともいとおほくひきつゝき給へるいきほひこちたきをみるにならふへくもあら
ぬそくしいたかりけるひと　くのそきてみたてまつりてさもきよらにおはしけ
るおとゝかなさはかりいつれとなくわかくさかりにてきよけにおはさうする御
こともの似給ふへきもなかりけりあなめてたやといふもあり又さはかりやむこ
となけなる御さまにてわさとむかへにまいり給へるこそにくけれやすけなの世
の中やなとうちなけくもあるへし御みつからもきし方を思ひいつるよりはしめ
かの花やかなる御なからひにたちましるへくもあらすかすかなる身のおほえを
といよ　く心ほそけれはなをこゝろやすくこもりゐなんのみこそめやすからめ
なといとゝおほえ給はかなくてとしもくれぬ正月つこもりかたよりれいならぬ

さまになやみ給を宮また御覧ししらぬことにていかならむとおほしなけきてみすほうなと所　くにてあまたせさせ給に又　くはしめそへさせ給いといたくわつらひ給へはきさいの宮よりも御とふらひありかくてみとせになりぬれとひと所の御心さしこそをろかならねおほかたのよにはもの　くしくももてなしきこえ給はさりつるをこのおりそいつこにも　く聞え給ける中納言君は宮のおほしさはくにをとらすいかにをはせんとなけきて心くるしくうしろめたくおほさるれとかきりある御とふらひはかりこそあれあまりもえまかてたまはてしのひてそ御いのりなともせさせ給けるさるは女二の宮の御もき只このころになりて世中ひゝきいとなみのゝしるよろつのことみかとの御心ひとつなるやうにおほしいそけは御うしろみなきしもそ中　くめてたけにみえける女御のしをき給へることをはさるものにてつくも所さるへきすらうともなととり　くにつかうまつることゝもいとかきりなしやゝかてその程にまいりそめ給へきやうにありけれはおとこかたも心つかひし給比なれとれいのことなれはそなたさまには心もいらてこの御事のみいとおしくなけかるきさらきのついたちころになおしものとかいふことに権大納言になり給て右大将かけ給つ右のおほいとのひたりにておはしけるかしゝ給へる所なりけりよろこひに所　くありき給てこの宮にもまいりたまへりいとくるしくし給へはこなたにおはしますほなりけれはやかてまいり給へりそうなとさふらひてひんなきかたにとおとろき給てあさやかなる御なをし御したかさねなとたてまつりひきつくろひ給ておりてたうのはいし給御さまともとり　くにいとめてたくやかてつかさのろく給ふあるしの所にとさうしたてまつりたまふをなやみ給人によりてそおほしたゆたひ給める右大臣殿のし給ひけるまゝにとて六条の院にてなんありけるゑんかのみこたちかんたちめたいきやうにをとらすあまりさはかしきまてなんつとひ給けるこの宮もわたり給てしつ心なけれはまた事はてぬにいそきかへり給ぬるを大殿の御かたにはいとあかすめさましとの給をとるへくもあらぬ御程なるをたゝいまのおほえの花やかさにおほしをこりてをしたちもてなし給へるなめりかしからうしてそのあか月おとこにてむまれ給へるを宮もいとかひありてうれしくおほしたり大将殿もよろこひにそへてうれしくおほすよへおはしましたりしかしこまりにやかてこの御よろこひも打そへてたちなからまいり給へりかくこもりおはしませはまいり給はぬ人なし御うふやしなひ三日はれいのたゝ宮の御わたくしことにて五日のよ大将殿よりとんしき五十く五てのせにわうはんなとはよのつねのやうにてこもちの御まへのついかさね三十

ちこの御そいつへかさねにて御むつきなとそこと　くしからすしのひやかにし
なし給へれとこまかにみれはわさとめなれぬ心はえなとみえける宮のおまへに
もせんかうのおしきたかつきともにてふすくまいらせ給へり女はうの御まへに
はついかさねをはさるものにてひわりこ三十さま　くしつくしたることゝもあ
り人めにこと　くしくはことさらにしなし給はす七日の夜はきさいの宮の御う
ふやしなひなれはまいり給人　くいとおほかり宮のたいふをはしめて殿上人か
むたちめ数しらすまいり給へりうちにもきこしめして宮のはしめてをとなひ給
なるにはいかてかとの給はせて御はかしたてまつらせ給へり九日もおほい殿よ
りつかうまつらせたまへりよろしからすおほすあたりなれと宮のおほさん所あ
れは御このきんたちなとまいり給てすへていと思事なけにめてたけれは御身つ
からも月比ものおもはしく心ちのなやましきにつけても心ほそくおほしたりつ
るにかくおもたゝしくいまめかしき事ともものおほかれはすこしなくさみもやし
給らむ大将殿はかくさへをとなひはてたまふめれはいとゝわかかたさまはけと
をくやならむ又宮の御心さしもいとをろかならしと思ふはくちおしけれと又は
しめよりの心をきてを思にはいとうれしくもありかくてその月の廿日あまりに
そふちつほの宮の御もきのことありて又の日なん大将まいり給ひけるよのこと
はしのひたるさまなりあめのしたひゝきていつくしうみえつる御かしつきにた
ゝ人のくしたてまつり給そ猶あかす心くるしくみゆるさる御ゆるしはありなか
らもたゝいまかくいそかせ給ましきことそかしとそしらはしけにおもひの給ふ
人もありけれとおほしたちぬる事すか　くしくおはします御心にてきしかたた
めしなきまておなしくはもてなさんとおほしをきつるなめりみかとの御むこに
なる人はむかしもいまもおほかれとかくさかりの御よにたゝ人のやうにむこと
りいそかせ給へるたくひはすくなくやありけん右のおとゝもめつらしかりける
人の御おほえすくせなりこ院たに朱雀院の御するゑにならせ給ていまはとやつし
給しきはにこそかのはゝ宮をえたてまつり給しかわれはまして人もゆるさぬも
のをひろひたりしやとの給いつれは宮はけにとおほすにはつかしくて御いらへ
もえし給はす三日のよは大蔵卿よりはしめてかの御方の心よせになさせ給へる
人　くけいしにおほせ事給てしのひやかなれとかのこせんすいしんくるまそひ
とねりまてろく給はすその程のことゝもはわたくしことのやうにそありけるか
くてのちはしのひ　くにまいり給ふ心のうちにはなをわすれかたきいにしへさ
まのみおほえてひるはさとにおきふしなかめくらしてくるれは心よりほかにい
そきまいり給をもならはぬ心ちにいとものうくゝるしくてまかてさせたてまつ

らむとそおほしをきてけるはゝ宮はいとうれしき事におほしたりおはしますし
ん殿ゆつりきこゆへくの給へといとかたしけなからむとて御ねんすたうのあは
ひにらうをつゝけてつくらせ給にしおもてにうつろひ給へきなめりひんかしの
たいともなともやけてのちうるはしくあたらしくあらまほしきをいよ　くみか
きそへつゝこまかにしつらはせ給かゝる御心つかひをうちにもきかせ給てほと
なくうちとけうつろひ給はんをいかゝとおほしたり御門ときこゆれと心のやみ
はおなしことなんおはしましけるはゝ宮の御もとに御つかひありける御ふみに
もたゝこのことをなむきこえさせ給ける故朱雀院のとりわきてこのあま宮の御
事をはきこえをかせ給しかはかく世をそむき給へれとおとろへすなに事ももと
のまゝにてそうせさせ給事なとはかならすきこしめしいれ御よういふかかりけ
りかくやむことなき御心ともにかたみにかきりもなくもてかしつきさはかれ給
おもたゝしさもいかなるにかあらむ心のうちにはことにうれしくもおほえす猶
ともすれはうちなかめつゝうちのてらつくることをいそかせ給ふ宮のわかきみ
のいかになり給日かそへとりてそのもちゐのいそきを心にいれてこものひわり
こなとまてみいれ給つゝよのつねのなへてにはあらすとおほし心さしてちんし
たんしろかねこかねなと道　くのさいくともいとおほくめしさふらはせ給へは
われをとらしとさま　くのことゝもをしいつめり身つからもれいの宮のおはし
まさぬひまにおはしたり心のなしにやあらむいますこしをも　くしくやむこと
なけなるけしきさへそひにけりとみゆいまはさりともむつかしかりしすゝろ事
なとはまきれ給にたらんと思に心やすくてたいめんし給へりされとありしなか
らのけしきにまつなみたくみて心にもあらぬましらひいと思ひのほかなるもの
にこそとよを思給へみたるゝ事なんまさりにたるとあいたちなくそうれへ給い
とあさましき御ことかな人もこそをのつからほのかにももりきゝ侍れなとはの
給へとかはかりめてたけなる事ともにもなくさますわすれかたく思ひ給覧心ふ
かさよとあはれに思きこえ給にをろかにもあらす思しられ給おはせましかはと
くちおしくおもひいてきこえ給へとそれもわかありさまのやうにうらやみな
く身をうらむへかりけるかしなに事も数ならてはよの人めかしき事もあるまし
かりけりとおほゆるにそいとゝかのうちとけはてゝやみなんと思給へりし心お
きては猶いとをも　くしく思出られ給わか君をせちにゆかしかりきこえ給へは
はつかしけれとなにかはへたてかほにもあらむわりなき事ひとつにつけてうら
みらるゝよりほかにはいかてこの人の御心にたかはしと思へは身つからはとも
かくもいらへきこえたまはてめのとしてさしいてさせ給へりさらなる事なれは

にくけならんやはゆゝしきまてしろくうつくしくてたかやかにものかたりしうちわらひなとし給かほをみるにわかものにてみまほしくうらやましきもよの思はなれかたくなりぬるにやあらむされといふかひなくなり給にし人のよのつねのありさまにてかやうならむ人をもとゝめをき給へらましかはとのみおほえてこの比おもたゝしけなる御あたりにいつしかなとは思よられぬこそあまりすへなき君の御心なめれかくめゝしくねちけてまねひなすこそいとおしけれしかわろひかたほならん人をみかとのとりわきせちにちかつけてむつひ給へきにもあらし物をまことしきかたさまの御心をきてなとこそはめやすくものし給けめとそをしはかるへきけにいとかくをさなき程をみせ給へるもあはれなれははれいよりはものかたりなとこまやかにきこえ給ふ程にくれぬれは心やすくよをたにふかすましきをくるしうおほゆれはなけく　くいて給ぬおかしの人の御にほひやおりつれはとかやいふやうにうくひすも尋ねきぬへかめりなとわつらはしかるわかき人もありなつにならは三条の宮ふたかるかたになりぬへしとさためて四月ついたちころせちふんとかいふ事またしきさきにわたしたてまつり給あすとての日ふちつほにうへわたらせ給てふちの花のえんせさせ給ふみなみのひさしのみすあけていしたてたりおほやけわさにてあるしの宮のつかうまつり給にはあらすかんたちめてん上人のきやうなとくらつかさよりつかうまつれりみきのおとゝあせちの大納言とう中納言左兵衛のかみみこたちは三宮ひたちの宮なとさふらひ給みなみの庭のふちの花のもとに殿上人のさはしたりこうらう殿のひんかしにかくその人　くめしてくれ行程にそうてうにふきてうへの御あそひに宮の御方より御ことゝも笛なといたさせ給へはおとゝをはしめたてまつりておまへにとりつゝまいり給故六条の院の御てつからかき給て入道の宮にたてまつらせ給いしきんのふ二巻こえふの枝につけたるをおとゝとり給てそうし給つき　くにさうの御ことひわ和こんなとすさくゐんのものともなりけり笛はかのゆめにつたへしいにしへのかたみのを又なきものゝ音なりとめてさせ給けれはこのおりのきよらより又はいつかははえ　くしきついてのあらむとおほしてとうて給へるなめりおとゝわこん三宮ひわなととり　くに給大将の御ふえはけふそよになきねのかきりは吹たて給ける殿上人のなかにもしやうかにつきなからぬともはめしいてゝおもしろくあそふ宮の御方よりふすくまいらせ給へりちんのをしきよつしたんのたかつきふちのむらこのうちしきにおりえたぬひたりしろかねのやうきるりの御さかつきへいしはこんるり也兵衛のかみ御まかなひつかうまつり給御さかつきまいり給におとゝしきりてはひんなかるへし宮たちの御

中にはわたさるへきもおはせねは大将にゆつりきこえ給をはゝかり申給へと御
気色もいかゝありけん御さか月さゝけてをしとの給へるこはつかひもてなしさ
へれいのおほやけことなれと人に似すみゆるもけふはいとゝみなしさへそふに
やあらむさしかへし給はりておりてふたうし給へる程いとたくひなし上らうの
みこたち大臣なとの給はり給たにめてたきことなるをこれはまして御むこにて
もてはやされたてまつり給へる御おほえをろかならすめつらしきにかきりあれ
はくたりたるさにかへりつき給へる程心くるしきまてそみえけるあせちの大納
言は我こそかゝるめもみんと思しかねたのわさやと思給へりこの宮の御はゝ女
御をそむかし心かけきこえ給へりけるをまいり給てのちも猶思はなれぬさまに
きこえかよひ給てはては宮を得たてまつらむの心つきたりけれは御うしろみの
そむけしきももらし申けれときこしめしたにつたへすなりにけれはいと心やま
しと思て人からはけに契ことなめれとなそ時のみかとのこと　くしきまてむこ
かしつき給へきまたあらしかしこゝのへのうちにおはしますとのちかき程にて
たゝ人のうちとけとふらひてはてはえんやなにやともてさはかるゝことはなと
いみしくそしりつふやき申給けれとさすかゆかしけれはまいりて心のうちにそ
はらたちゐ給へりけるしそくさしてうたともたてまつるふんたいのもとにより
つゝをく程のけしきはをの　くしたりかほなりけれとれいのいかにあやしけに
ふるめきたりけんと思やれはあなかちにみなもたつねかゝすかみのまちも上ら
うとて御くちつきともはことなることみえさめれとしるしはかりとてひとつふ
たつそとひきゝたりしこれは大将のきみのおりて御かさしおりてまいり給へり
けるとか

すへらきのかさしにおると藤のはなをよはぬえたに袖かけてけりうけはり
たるそにくきや

よろつよをかけてにほはん花なれはけふをもあかぬ色とこそみれ

きみかためおれるかさしはむらさきのくもにをとらぬ花のけしきか

よのつねの色ともみえす雲ゐまてたちのほりたるふちなみの花これやこの
はらたつ大納言のなりけんとみゆれかたへはひかことにもやありけんかやうに
ことなるおかしきふしもなくのみそあなりしよふくるまゝに御あそひいとおも
しろし大殿のきみあなたうとうたひ給へる声そかきりなくめてたかりけるあせ
ちもむかしすくれ給へりし御声のなこりなれはいまもいともの　くしくてうち
あはせたまへりみきの大殿の御七らうわらはにてさうのふえふくいとうつくし
かりけれは御そたまはすおとゝおりてふたうし給あか月ちかうなりてそかへら

せ給けるろくともかんたちめみこたちにはうへより給はす殿上人かくその人
くには宮の御かたよりしな　くに給ひけりそのよふさりなん宮まかてさせた
てまつり給けるきしきいと心こと也うへの女房さなから御をくりつかうまつら
せ給けるひさしの御車にてひさしなきいとけみつこかねつくりむつたゝのひら
うけ廿あしろ二わらはしもつかへ八人つゝさふらふに又御むかへのいたし車と
もに本所の人　くのせてなんありける御をくりのかむたちめ殿上人ろくゐなと
いふかきりなきゝよらをつくさせ給へりかくて心やすくうちとけてみたてまつ
り給にいとおかしけにおはすさゝやかにしめやかにてこゝはとみゆる所なくお
はすれはすくせの程くちおしからさりけりと心おこりせらるゝ物からすきにし
かたのわすられはこそはあらめ猶まきるゝおりなくもののみ恋しくおほゆれは
このよにてはなくさめかねつへきわさなめり仏になりてこそはあやしくつらか
りける契りの程をなにのむくひとあきらめて思はなれめと思つゝてらのいそき
にのみ心をいれ給へりかものまつりなとさはかしき程すくしてはつかあまりの
ほとにれいのうちへおはしたりつくらせ給みたうみ給てすへきことゝもをきて
の給さてれいのくち木のもとをみ給へ過んか猶あはれなれはそなたさまにおは
するに女くるまのこと　くしきさまにはあらぬひとつあらましきあつまおとこ
のこしにものおへるあまたくしてしも人も数おほくたのもしけなるけしきにて
はしよりいまわたりくるみゆゐ中ひたる物かなとみ給つゝ殿はまついり給て御
せんともはまたたちさはきたる程にこのくるまもこの宮をさしてくる也けりと
みゆみすいしんともゝかや　くといふをせいし給てなに人そとゝはせ給へは声
うちゆかみたるものひたちのせんし殿のひめ君のはつせのみてらにもうてゝも
とり給へるなりはしめもこゝになんやとり給へしと申すにおいやきゝし人なゝ
りとおほしいてゝ人　くをことかたにかくし給てはや御車いれよこゝに又人や
とり給へときたおもてになんといはせ給御ともの人もみなかりきぬすかたにて
こと　くしからぬすかたともなれと猶けはひやしるからんわつらはしけに思て
むまともひきさけなとしつゝかしこまりつゝそおるくるまはいれてらうのにし
のつまにそよするこのしん殿はまたあらはにてすたれもかけすおろしこめたる
なかのふたまにたてへたてたるさうしのあなよりのそき給御そのなれはぬきを
きてなをしさしぬきのかきりをきてそおはするとみにもおりてあまきみにせう
そこしてかくやむことなけなる人のおはするをたれそなとあないするなるへし
君は車をそれときゝ給つるよりゆめ其人にまろありとの給なとまつくちかため
させ給てけれはみなさ心得てはやうおりさせ給へまらうとはものし給へとこと

かたになんといひいたしたりわかき人のあるまつおりてすたれうちあくめりこせんのさまよりはこのおもとなれてめやすし又をとなひたる人いまひとりおりてはやうといふにあやしくあらはなる心ちこそすれといふ声ほのかなれとあてやかにきこゆれいの御こととこなたはさき　くもおろしこめてのみこそははへれさては又いつこのあらはなるへきそと心をやりていふつゝましけにおるゝをみれはまつかしらつきやうたいほそやかにあてなる程はいとよくもの思いてられぬへしあふきをつとさしかくしたれはかほはみえぬほと心もとなくてむねうちつふれつゝみ給車はたかくおるゝ所はくたりたるをこの人　くはやすらかにおりなしつれといとくるしけにやゝみてひさしくおりてゐさりいるこきうちきになてしことおほしきほそなかわかなへ色のこうちきゝたり四尺のひやうふをこのさうしにそへてたてたるかかみよりみゆるあなゝれはのこる所なしこなたをはうしろめたけに思てあなたさまにむきてそゝひふしぬるさもくるしけにおほしたりつるかないつみ川のふなわたりもまことにけふはいとおそろしくこそありつれこのきさらきにはみつのすくなかりしかはよかりしなりけりいてやありくはあつまちおもへはいつこかおそろしからんなとふたりしてくるしとも思たらすいひゐたるにしうはをともせてひれふしたりかひなをさしいてたるかまろらかにおかしけなる程もひたち殿なといふへくはみえすまことにあてなりやう　くこしいたきまてたちすくみ給へと人のけはひせしとて猶うこかてみ給にわかきひとあなかうはしやいみしきかうの香こそすれあま君のたき給にやあらむおい人まことにあなめてたのものゝ香や京人は猶いとこそみやひかにいまめかしけれ天下にいみしきことゝおほしたりしかとあつまにてかゝるたきものゝかはえあはせいて給はさりきかしこのあま君はすまゐかくかすかにおはすれとさうそくのあらまほしくにひ色あをいろといへといときよらにそあるやなとほめいたりあなたのすのこよりわらはきて御ゆなとまいらせ給へとておしきとももとりつゝきてさしいるくたものとりよせなとしてものけ給はるこれなとおこせとおきねはふたりしてくりやなとやうのものにやほろ　くとくふもきゝしらぬこゝちにはかたはらいたくてしそき給へと又ゆかしくなりつゝ猶たちより　くみ給これよりまさるきはの人　くをきさいの宮をはしめてこゝかしこにかたちよきも心あてなるもこゝらあくまてみあつめ給へとおほろけならてはめも心もとまらすあまり人にもとかるゝまてものし給心ちにたゝいまはなにはかりすくれてみゆることもなき人なれとかくたちさりかたくあなかちにゆかしきもいとあやしき心なりあま君はこのとのゝ御かたにも御せうそこきこえいたしたりけ

れと御心ちなやましとていまの程うちやすませ給へるなりと御ともの人　く心
しらひていひたりけれはこの君を尋まほしけにの給しかはかゝるついてにもの
いひふれんとおもほすによりてひくらし給にやと思てかくのそき給覧とはしら
すれいのみさうのあつかりとものまいれるわりこやなにやとこなたにもいれた
るをあつま人ともにもくはせなとことゝもをこなひをきてうちけさうしてまら
うとのかたにきたりほめつるさうそくけにいとかはらかにてみめも猶よし　く
しくきよけにそあるきのふおはしつきなんとまちきこえさせしをなとかけふも
日たけてはといふめれはこのおい人いとあやしくくるしけにのみせさせ給へは
昨日はこのいつみ川のわたりにてけさもむこに御心ちためらひてなんといらへ
ておこせはいまそおきゐたるあま君をはちらひてそはみたるかたはらめこれよ
りはいとよくみゆまことにいとよしあるまみのほとかんさしのわたりかれをも
くはしくつく　くとしもみ給はさりし御かほなれとこれをみるにつけてたゝそ
れと思ひいてらるゝにれいの涙おちぬあま君のいらへ打する声けはひ宮の御方
にもいとよく似たりときこゆあはれなりける人かなかゝりけるものを今まて尋
もしらてすくしけることよこれよりくちおしからんきはのしなゝ覧ゆかりなと
にてたにかはかりかよひきこえたらん人を得てはをろかに思ふましき心ちする
にましてこれはしられたてまつらさりけれとまことにこ宮の御こににこそはあり
けれとみなし給てはかきりなくあはれにうれしくおほえ給たゝいまもはひより
てよの中におはしけるものをといひなくさめまほしほうらいまて尋てかんさし
のかきりをつたへてみ給けんみかとは猶いふせかりけんこれはこと人なれとな
くさめ所ありぬへきさまなりとおほゆるはこの人に契りのおはしけるにやあら
むあま君はものかたりすこしゝてとくいりぬ人のとかめつるかほりをちかくの
そき給なめりと心えてけれはうちとけこともかたらはすなりぬるなるへし日く
れもていけは君もやをらいてゝ御そなとき給てそれいめし出るさうしのくちに
あま君よひてありさまなとゝひ給おりしもうれしくまてあひたるをいかにそか
の聞えしことはとの給へはしかおほせこと侍し後はさるへきついて侍らはと待
侍しにこそはすきてこの二月になんはつせまうてのたよりにたいめんして侍し
かのはゝ君におほしめしたるさまはほのめかし侍しかはいとかたはらいたくか
たしけなき御よそへにこそは侍なれなとなん侍しかとその比ほひはのとやかに
もおはしまさすとうけ給はりしおりひんなく思ひ給へつゝみてかくなんともき
こえさせ侍らさりしをまたこの月にもまうてゝけふかへり給なめりゆきかへり
のなかやとりにはかくむつひらるゝもたゝすきにし御けはひを尋きこゆるゆへ

になんはへめるかのはゝ君もさはる事ありてこのたひはひとりものし給めれはかくおはしますともなにかはものし侍らんとてときこゆゐ中ひたる人ともにしのひやつれたるありきもみえしとてくちかためつれといかゝあらむけすともはかくれあらしかしさていかゝすへきひとりものすらんこそなか　く心やすかなれかく契ふかくてなんまいりきあひたるとつたへ給へかしとの給へはうちつけにいつの程なる御ちきりにかはとうちわらひてさらはしかつたへ侍らんとていると

かほとりの声も聞しにかよふやとしけみをわけてけふそたつぬるたゝくちすさみのやうにの給ふをいりてかたりけり